

最新がん統計

福井県のがん登録状況

■ 最新集計について

集計の期間

罹患年月日が平成 20（2008）年 1 月 1 日から 12 月 31 日の間の 1 年間。過去の罹患年についても再集計。

集計の時期 平成 24（2012）年 4 月 19 日現在

罹患年月日の決め方

- ① 届出による登録例は初めて当該がんと診断された年月日を罹患年月日とする
- ② 届出がなく、死亡小票の写しによってがん罹患が判明した例は、死亡年月日をもって罹患年月日とする

集計の対象

- ① ICD-0-3 分類の性状 2（上皮内）、3（悪性、浸潤性）で示される新生物
- ② DCO 例については、①に加えて、ICD-0-3 分類の性状 1（良性・悪性の別不詳：例 悪性の明示のない〇〇腫瘍）で示される新生物による死亡で、部位が脳

■ 福井県がん登録の概況

表 1 福井県がん登録の精度の推移（標準集計） 昭和 59 年～平成 20 年

年	人口	悪性新生物		届出精度		診断精度			自主的届出登録率 (%)
		罹患数 I	死亡数 M	DCO (%)	I / M	HV / I (%)	HV / R (%)	MV / R (%)	
S59～S61	816,570	2,682	1,368	6.8	1.96	68.4	73.4	78.3	80.5
S62～H 1	821,764	2,852	1,486	1.9	1.92	75.4	76.9	81.6	81.3
H 2～H 4	824,131	3,092	1,582	2.9	1.95	72.2	74.4	74.9	79.7
H 5～H 7	826,065	3,408	1,690	3.8	2.02	70.5	73.3	79.9	83.1
H 8～H10	827,841	3,828	1,927	5.3	1.99	66.3	70.0	78.7	84.9
H11～H13	828,521	3,884	2,039	3.6	1.90	68.6	71.2	78.7	86.6
H14～H16	825,199	4,317	2,154	3.5	2.00	69.4	72.0	79.7	84.7
H17～H19	818,405	4,995	2,251	2.7	2.22	74.5	76.6	82.7	87.4
H20	811,464	5,358	2,356	3.4	2.27	75.4	78.0	83.5	87.2

※複数年については平均数および率である。

I：罹患数（上皮内がんを含む） M：死亡数 R：届出患者数 HV：組織学的診断実施数
 MV：顕微鏡学的診断実施数 DCO：死亡票のみのものの割合
 自主的届出登録：自主的届出による登録（罹患数から死亡票のみのものと補充票による登録を除く）

福井県がん登録は、届出漏れの少ない精度の高いがん登録を目標としてきた。

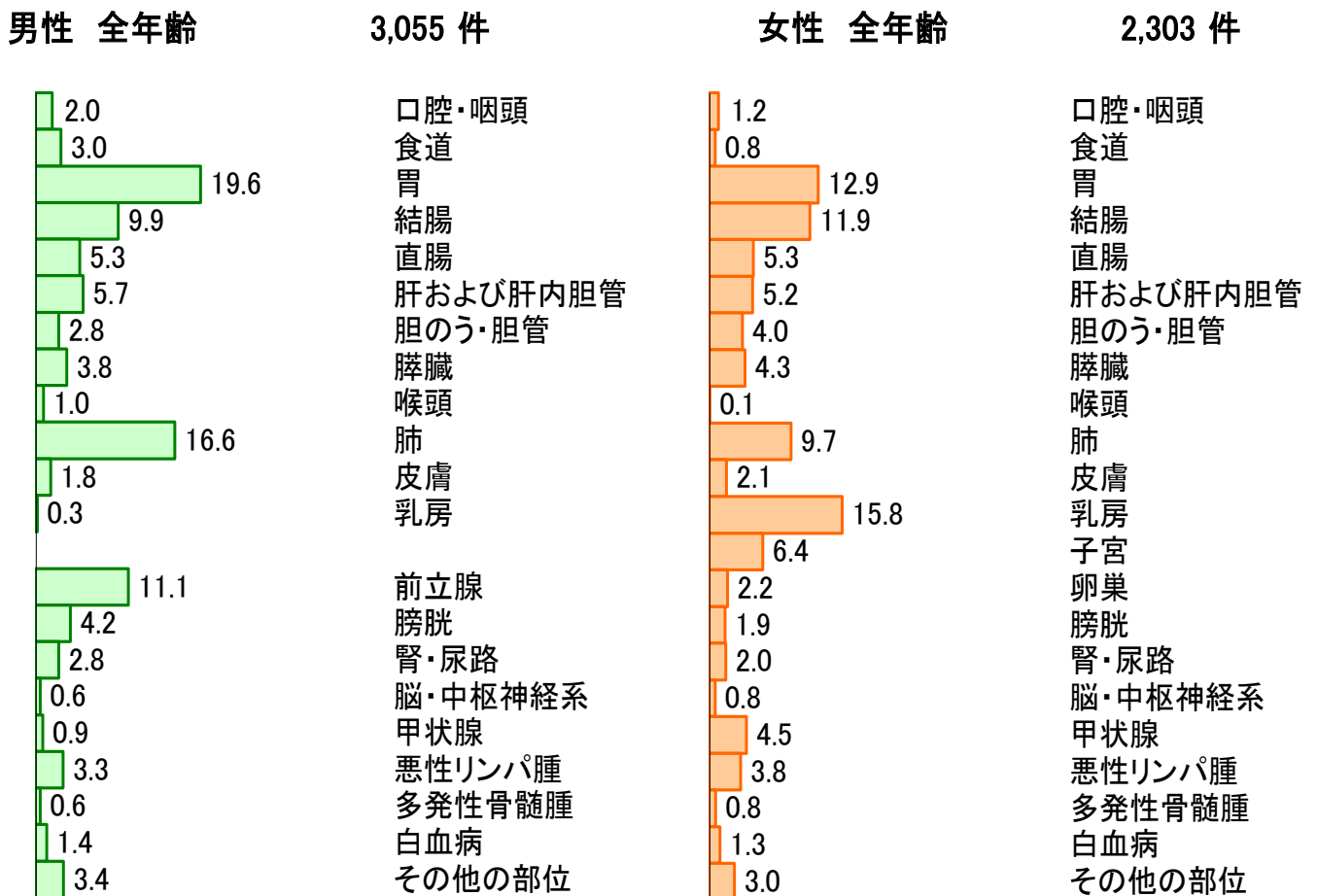
平成 20 年の自主的届出登録率は 87.2%と、依然高い率を維持している。また、死亡票のみで登録されたものの割合（DC0）は 3.4%であり、ここ数年間 5%を切る高い届出精度となっている。顕微鏡学的診断実施率は 83.5%と、登録精度を示す値は前回の値を下回った。

これは、報告書を集計する時期を早めた影響と思われる。精度を落とさず、罹患から 3 年後に報告書をまとめるためには、各医療機関からの早めの届出と遡り調査への協力が必要と思われる。

罹患の概要

平成 20 年に福井県において、男性延べ 3,055 件、女性延べ 2,303 件の、合計延べ 5,358 件のがんが、新たに診断された。男性で最も多いがんは胃がんであり、肺、前立腺、結腸、肝、直腸と続く。女性で最も多いがんは乳がんであり、胃、結腸、肺、子宮と続く（図 1）。

図 1 部位内訳（%）上皮内がんを含む（表 1-A、B から作成）



(1) 罹患とその年次推移

表2に、福井県におけるがんの罹患数、粗罹患率および年齢調整罹患率の年次推移を示した。

表2 悪性新生物罹患数、粗罹患率および年齢調整罹患率の推移

—全部位・性別— 昭和59年～平成20年

年	罹患数			粗罹患率			年齢調整罹患率			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
全部位1	S59～S61	1,439	1,243	2,682	363.0	295.8	328.4	250.7	178.2	207.7
	S62～H1	1,570	1,282	2,852	393.2	303.5	347.1	253.1	171.3	204.5
	H2～H4	1,728	1,364	3,092	431.3	322.0	375.1	258.8	174.5	208.8
	H5～H7	1,911	1,497	3,408	476.0	352.6	412.6	267.4	181.0	216.3
	H8～H10	2,191	1,637	3,828	544.9	384.5	462.4	283.6	187.1	226.9
	H11～H13	2,168	1,716	3,884	539.2	402.4	468.8	261.2	183.8	216.0
	H14～H16	2,455	1,862	4,317	614.5	437.5	523.2	269.7	187.5	221.6
	H17～H19	2,850	2,145	4,995	720.8	507.1	610.3	302.6	220.2	254.2
	(参考)H19	3,081	2,331	5,412	783.1	552.8	663.9	322.7	244.6	276.3
H20	3,055	2,303	5,358	780.7	548.1	660.3	310.4	229.7	263.8	

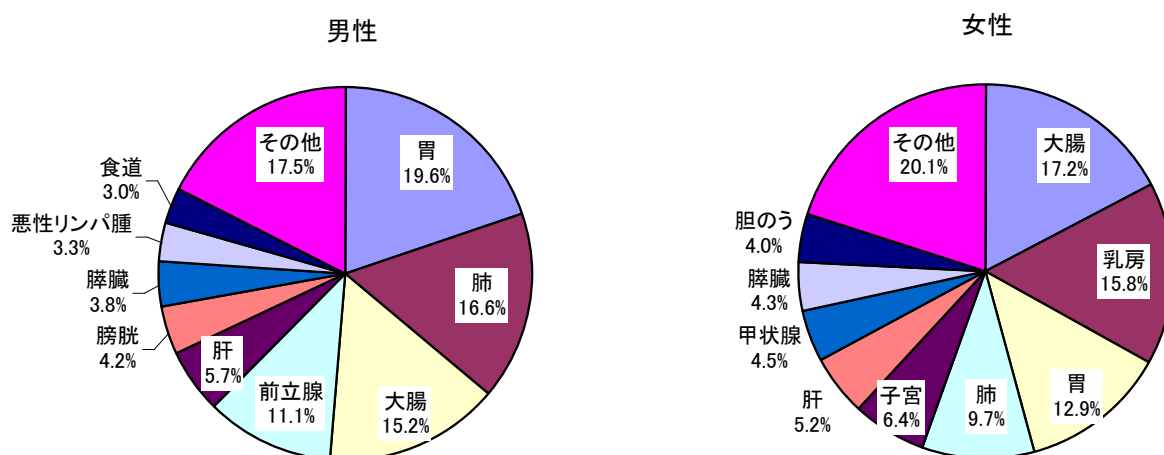
※複数年については平均数および率である。

注1：率：人口10万対 注2：調整罹患率の基準人口は世界人口 全部位1：上皮内がんを含む

平成20年は、平成19年と比較すると、罹患数、粗罹患率、年齢調整罹患率ともに若干減少した。

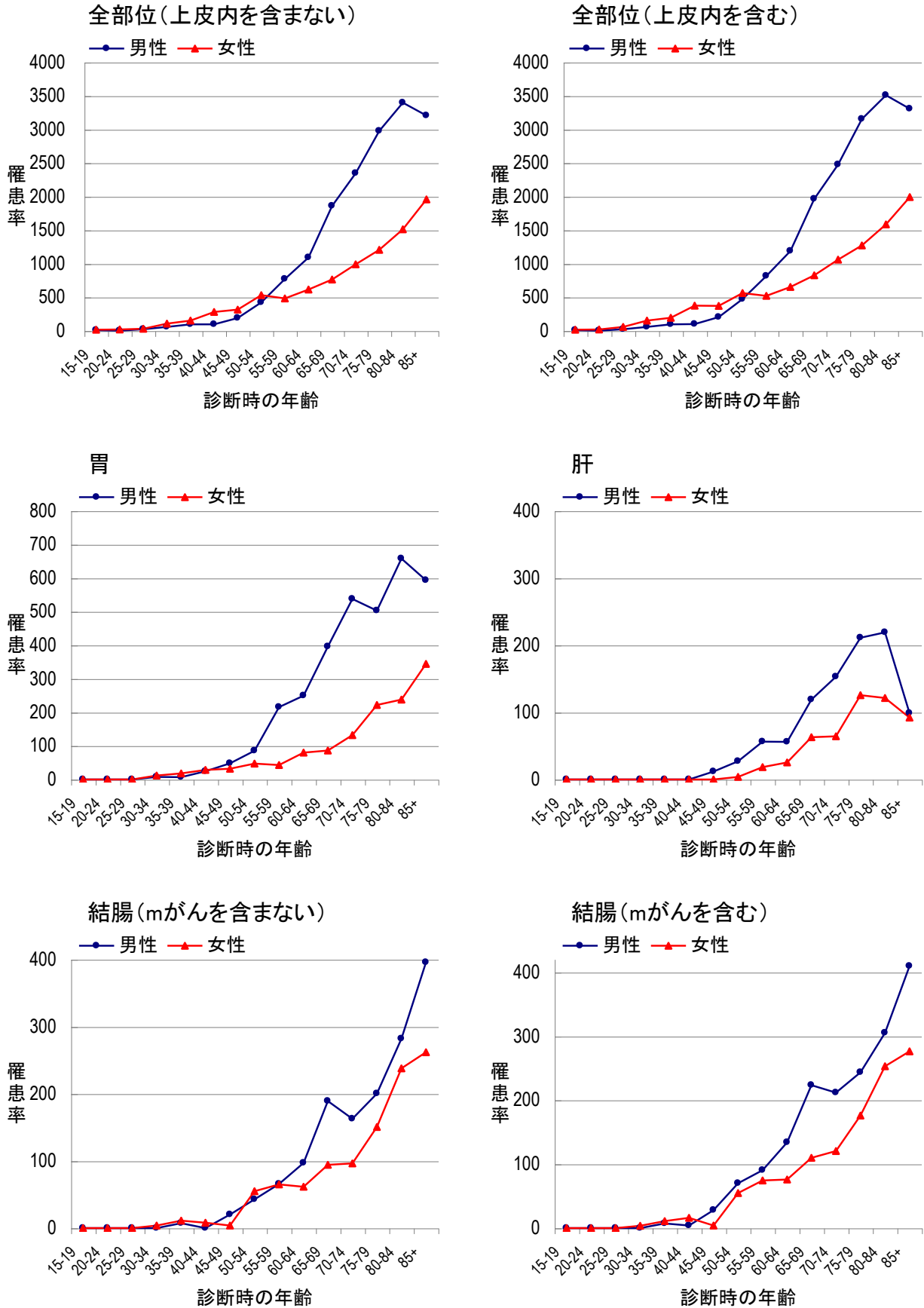
(2) 部位別に見たがんの罹患

図2 部位別罹患割合（上皮内がんを含む）（表1-A、Bから作成）

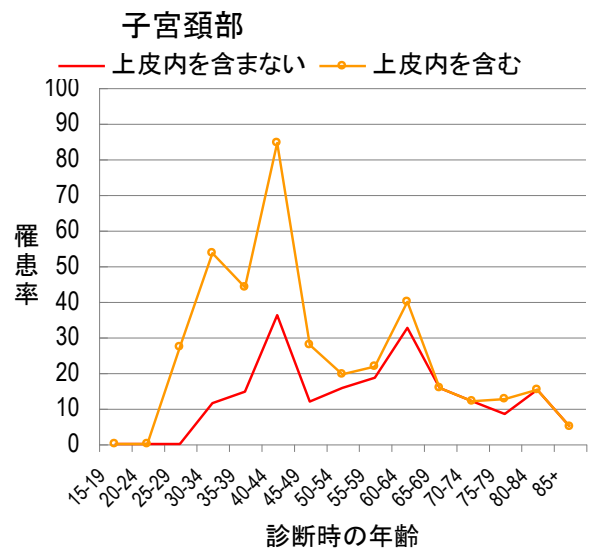
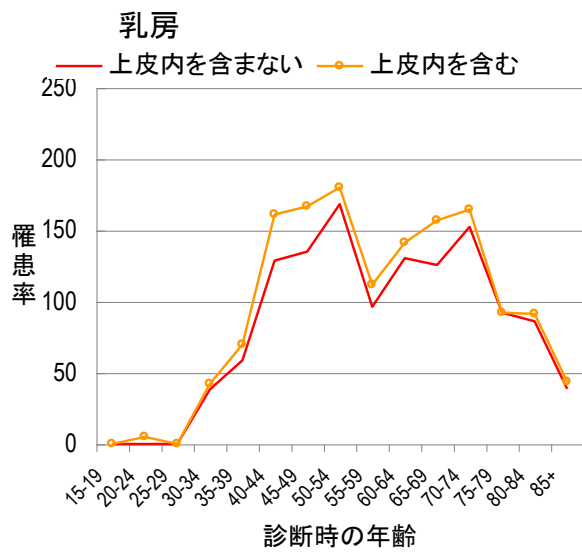
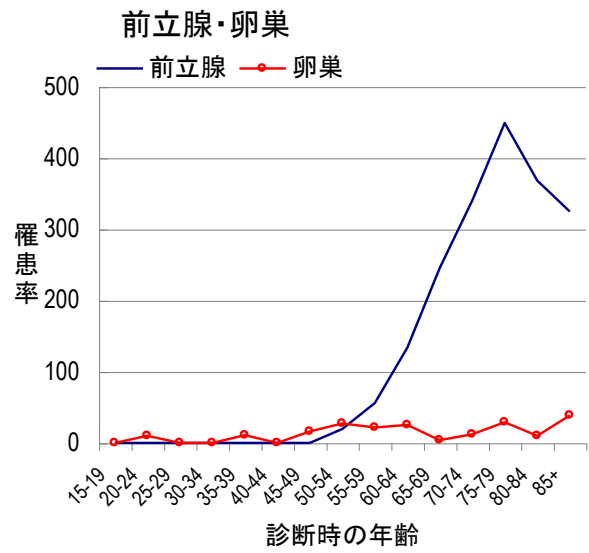
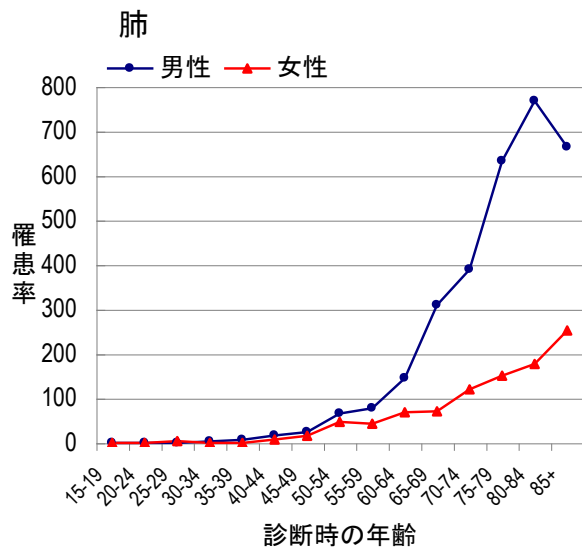
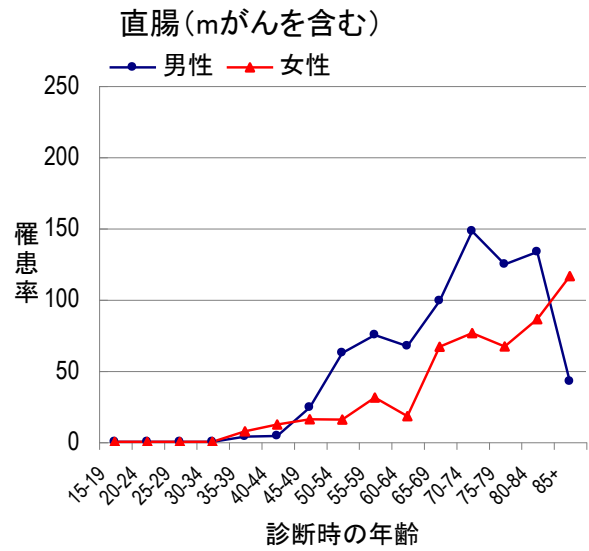
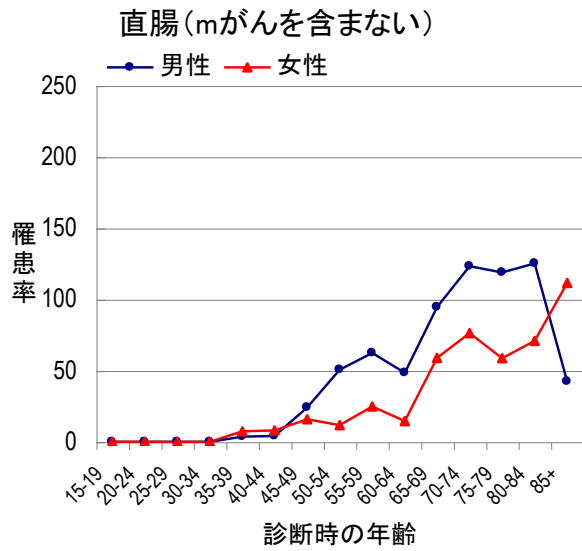


男性は、胃（19.6%）、肺（16.6%）、大腸（15.2%）、前立腺（11.1%）、肝（5.7%）の順に罹患が多く、肺の割合が増加し、大腸と肺が入れ替わった。女性は、大腸（17.2%）、乳房（15.8%）、胃（12.9%）、肺（9.7%）、子宮（6.4%）の順に罹患が多く、大腸が乳房を上回り、子宮と肺の順位が入れ替わった（図2）。

図3 部位別年齢階級別罹患率：人口10万対（表3-A、Bから作成）



注) mがんについて：我が国の地域がん登録では、大腸（結腸及び直腸）の粘膜内がん（mがん）は上皮内がんとして扱う。



(3) 部位別罹患の年次推移

表3に、昭和59年から平成20年までの罹患数、粗罹患率および年齢調整罹患率の推移を男女計で主な部位別に示した。

表3 主な部位別罹患数、罹患率の推移

A) 罹患数の推移

—男女計—

昭和59年～平成20年

年	全部位1	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	リンパ組織	白血病
S59～S61	2,682	31	821	213	128	157	121	98	270	141	128	56	69	62	45
S62～H 1	2,852	39	818	257	148	187	143	110	307	143	114	54	71	68	49
H 2～H 4	3,092	43	823	288	157	220	145	121	349	177	114	60	79	75	47
H 5～H 7	3,408	49	800	363	174	247	158	142	384	203	108	91	98	90	51
H 8～H10	3,828	56	876	406	227	266	174	149	458	223	107	131	117	104	51
H11～H13	3,884	63	833	444	209	268	168	152	462	243	122	137	129	107	49
H14～H16	4,317	77	851	474	210	303	177	179	533	288	114	238	141	126	57
H17～H19	4,995	92	896	545	270	294	182	202	638	370	161	323	162	149	57
H20	5,358	111	898	576	283	293	178	214	731	371	147	338	172	188	73

B) 粗罹患率（人口10万人対）の推移

—男女計—

昭和59年～平成20年

年	全部位1	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	リンパ組織	白血病
S59～S61	328.4	3.8	100.5	26.1	15.7	19.2	14.8	12.0	33.1	17.3	30.4	14.1	8.5	7.6	5.5
S62～H 1	347.1	4.8	99.5	31.3	18.0	22.8	17.4	13.4	37.4	17.4	26.9	13.5	8.6	8.3	6.0
H 2～H 4	375.1	5.2	99.9	34.9	19.1	26.7	17.6	14.7	42.3	21.4	27.0	15.1	9.6	9.1	5.7
H 5～H 7	412.6	6.0	96.9	44.0	21.1	29.9	19.1	17.1	46.5	24.6	25.4	22.8	11.9	10.9	6.1
H 8～H10	462.4	6.7	105.8	49.0	27.4	32.1	21.1	18.0	55.3	26.9	25.1	32.7	14.2	12.6	6.2
H11～H13	468.8	7.6	100.5	53.6	25.3	32.3	20.2	18.3	55.8	29.4	28.5	34.2	15.6	13.0	5.9
H14～H16	523.2	9.3	103.2	57.5	25.4	36.7	21.4	21.7	64.6	34.9	26.9	59.6	17.1	15.3	6.9
H17～H19	610.3	11.2	109.4	66.6	33.0	36.0	22.2	24.7	77.9	45.2	38.0	81.7	19.8	18.2	6.9
H20	660.3	13.7	110.7	71.0	34.9	36.1	21.9	26.4	90.1	45.7	35.0	86.4	21.2	23.2	9.0

C) 年齢調整罹患率（人口10万人対）の推移

—男女計—

昭和59年～平成20年

年	全部位1	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	リンパ組織	白血病
S59～S61	207.7	2.2	63.2	16.0	9.8	11.7	8.6	7.0	19.3	12.9	20.6	8.7	4.9	4.8	4.4
S62～H 1	204.5	2.7	58.2	18.4	10.7	13.3	9.0	7.0	19.9	12.1	18.3	7.4	4.4	5.0	4.3
H 2～H 4	208.8	2.7	55.4	18.9	10.7	14.4	8.3	7.2	20.6	14.9	17.7	7.7	4.8	5.2	4.5
H 5～H 7	216.3	3.1	50.0	22.2	11.1	15.4	8.3	7.5	21.6	16.4	17.3	10.8	5.4	6.7	4.0
H 8～H10	226.9	3.3	51.0	23.2	13.5	15.7	8.1	7.2	23.2	17.6	17.0	14.4	6.0	6.4	4.3
H11～H13	216.0	3.4	45.2	23.5	12.1	14.3	7.0	7.3	21.9	18.6	19.2	13.4	6.3	6.5	3.8
H14～H16	221.6	4.1	42.4	23.1	11.3	14.3	6.4	7.8	22.7	21.1	18.2	22.4	6.5	6.9	3.5
H17～H19	254.2	4.9	43.1	25.9	13.8	13.4	6.4	8.5	26.1	27.7	26.8	29.9	6.8	8.1	4.3
H20	263.8	5.0	41.4	26.0	14.3	11.8	5.8	8.3	29.8	28.4	25.0	30.7	6.5	9.7	5.7

※複数年については平均数および率である。

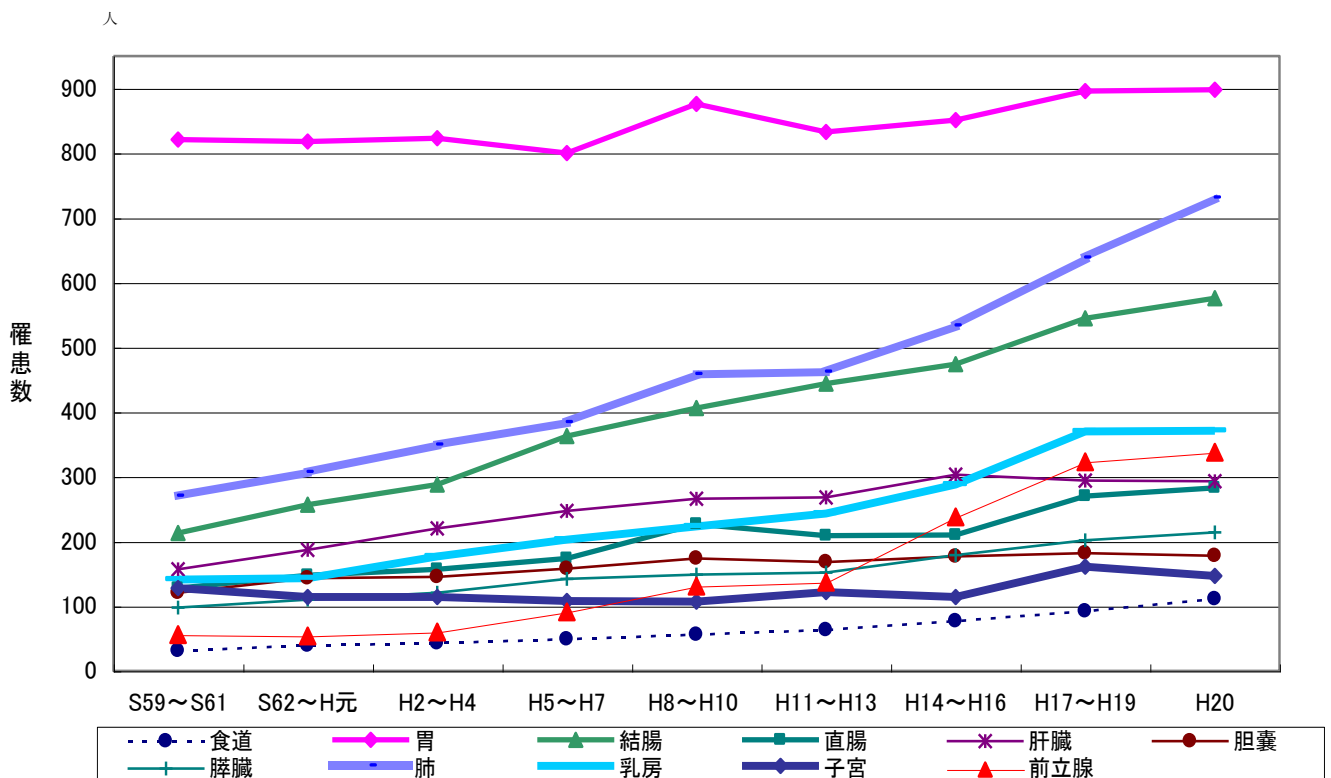
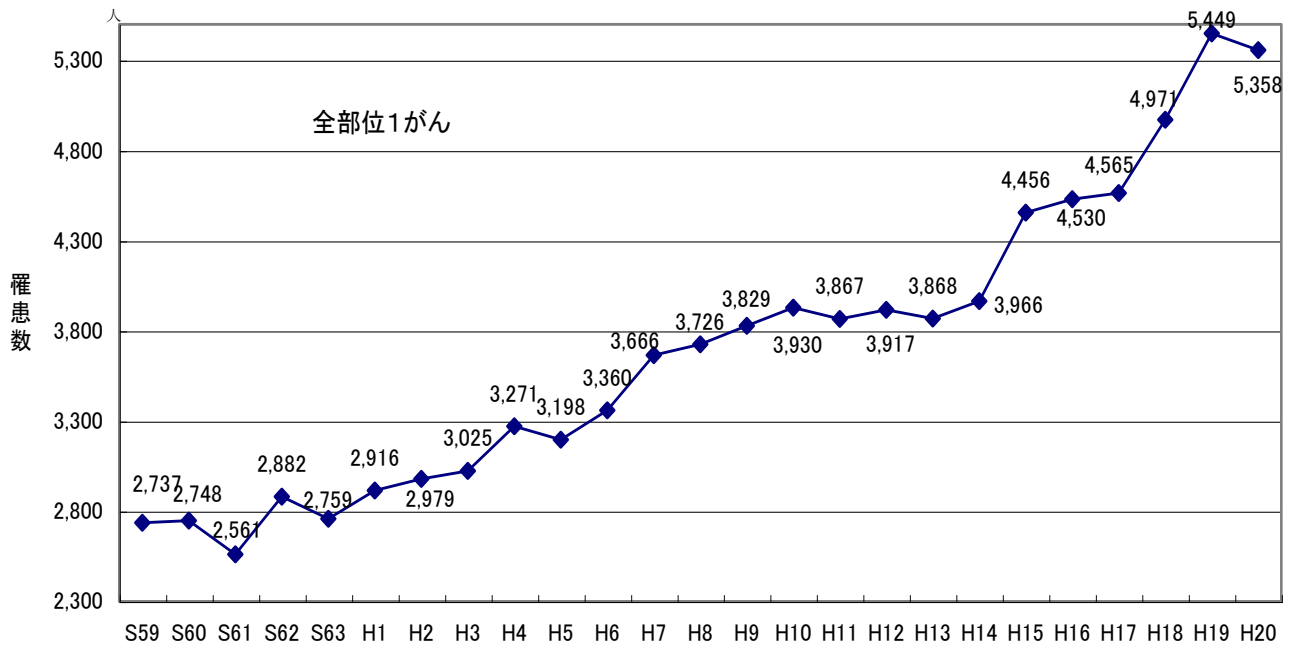
※胆嚢は胆管を含む。

※子宮がんは女のみ数および率を用いた。

※前立腺がんは男のみ数および率を用いた。

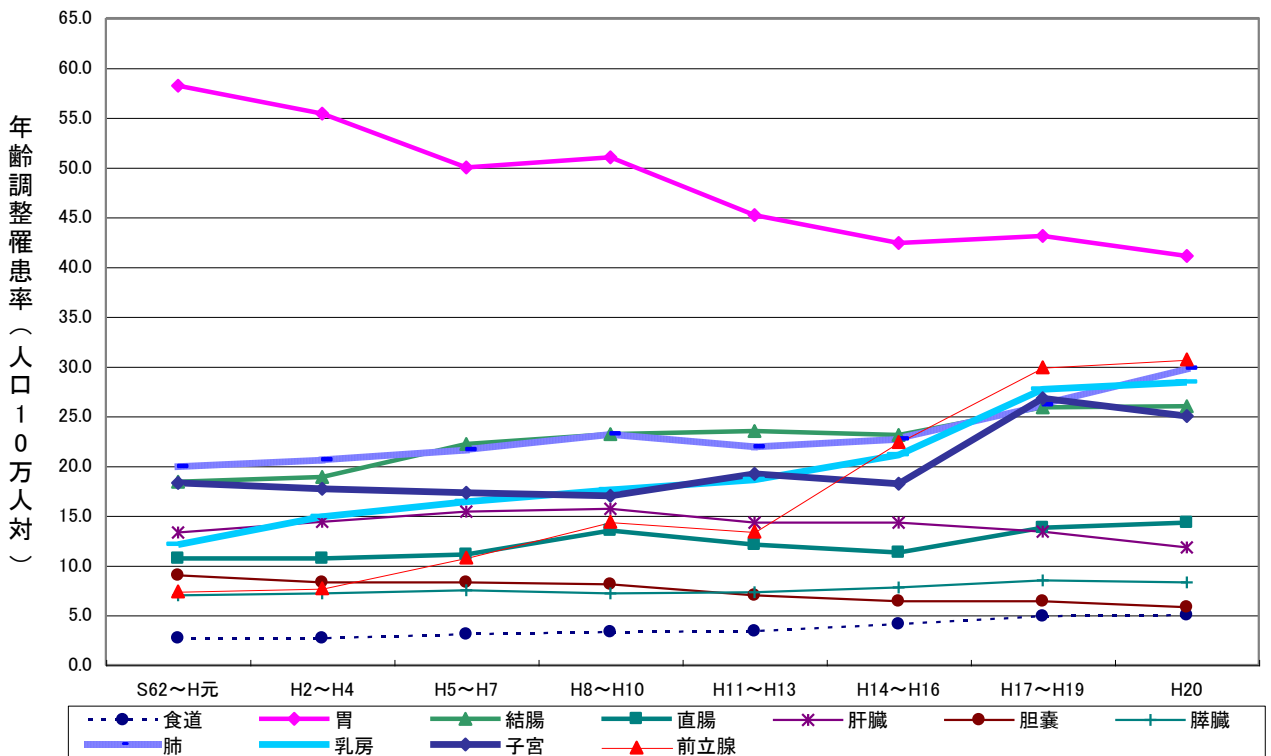
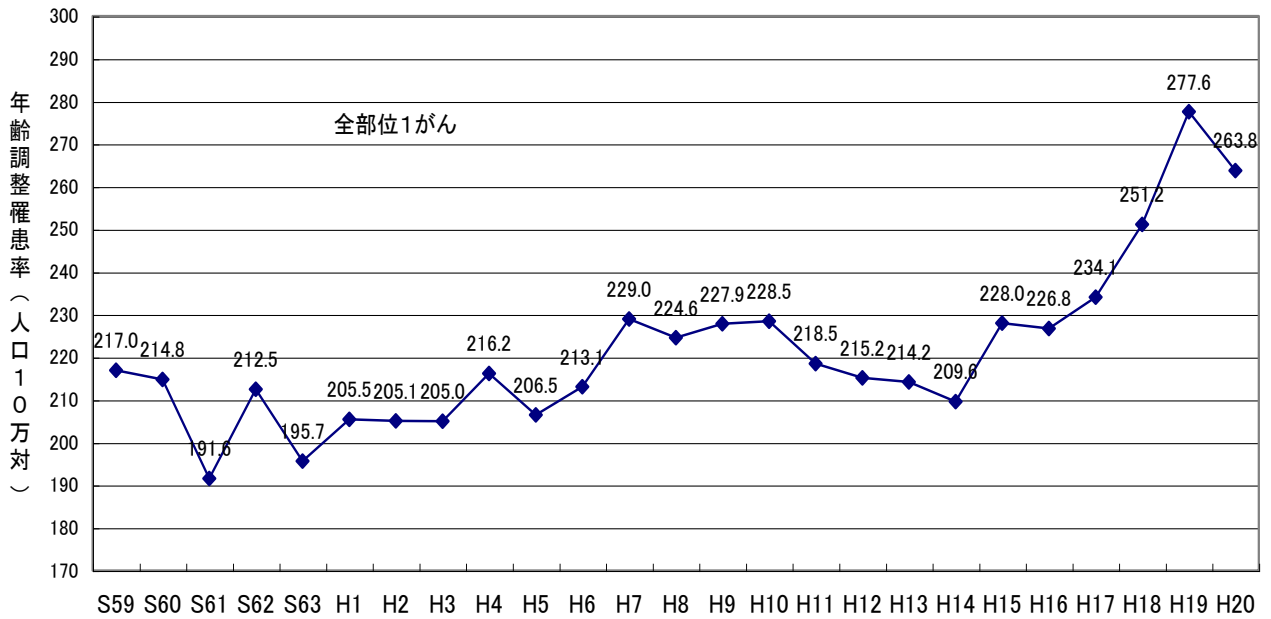
年齢調整罹患率で見ると、全部位のがんの罹患は前年より少ないものの、年々増加している。特に、肺がん、前立腺がん、乳がんが増加している。

図4 主な部位別罹患数の推移 (男女計)



※ 胆嚢は胆管を含む。
 ※ 複数年については、平均数である。

図5 主な部位別年齢調整罹患率の推移 (男女計)



※胆嚢は胆管を含む。
 ※子宮がんは女のみの率を用いた。
 ※前立腺がんは男のみの率を用いた。
 ※複数年は、平均率である。

(4) 年齢別に見たがんの罹患

年齢別にみると、平成20年に新たに診断されたがんについて、男女とも罹患者の65%以上が65歳以上だった。一方、働き盛りの40-64歳の年齢層も全体の約3割を占めている。女性の40-64歳のがんが多いのは、この年齢層の乳がんが多いためである。また、女性の15-39歳のがんが男性よりも多いのは、この年齢層の子宮頸がんとう乳がんが多いためである(図7)。

その他のほとんどあらゆる部位のがんは、年齢が高くなるほど罹患しやすい。主ながんの年齢階級別罹患率(人口10万対)(標準集計表 表3A, B p43, 44)をみると、男性の大腸がんは45歳以上、肺がんは50歳以上、胃がん、前立腺がんは55歳以上から多くなるのが分かる。女性の乳がんは30歳以上から増え始め、50~54歳で最も多い。女性の子宮頸がんは30歳~44歳が多いが、子宮体がんは50歳以上から多くなる。

図6 年齢別部位内訳 (%) (表2-A, B から作成)

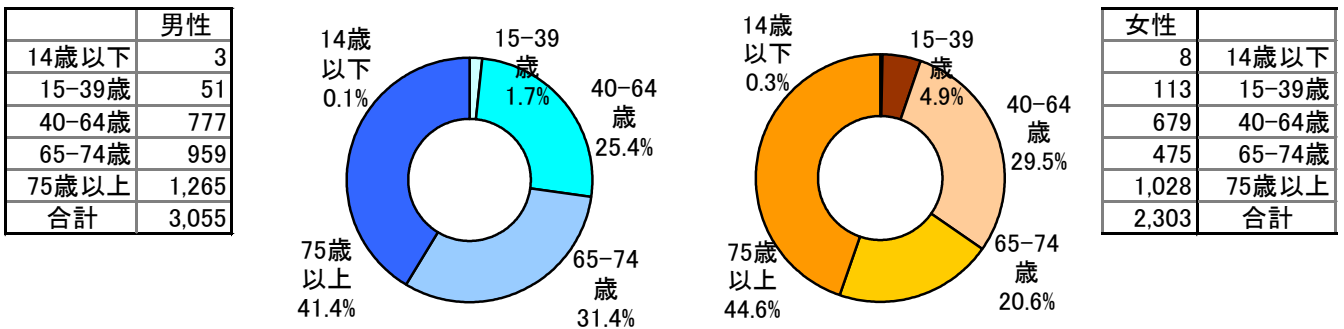


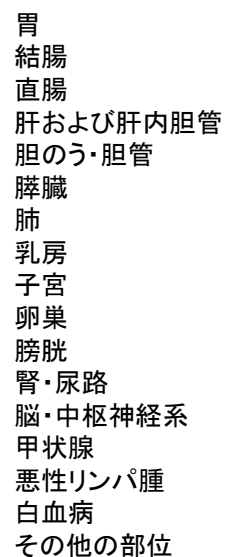
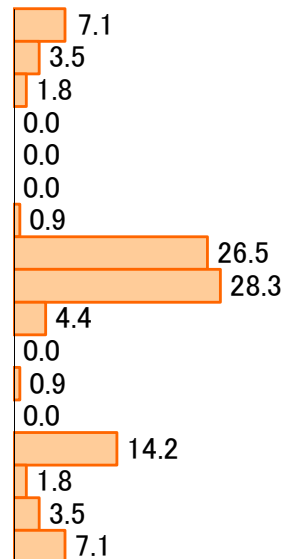
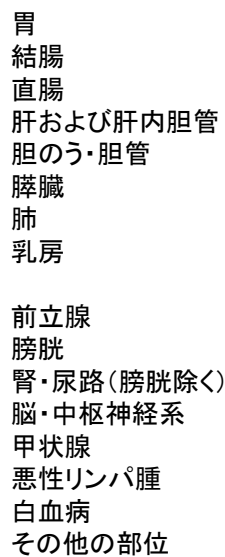
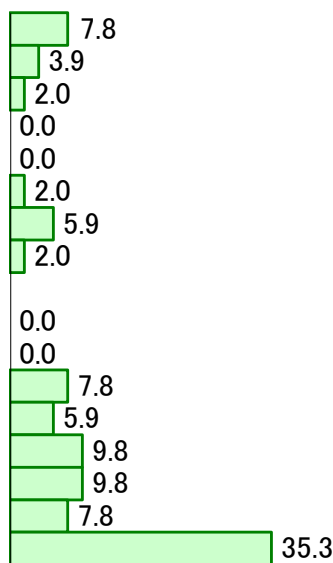
図7 年齢別部位内訳 (%) (表2-A, B から作成)

男性 15-39歳

51件

女性 15-39歳

113件

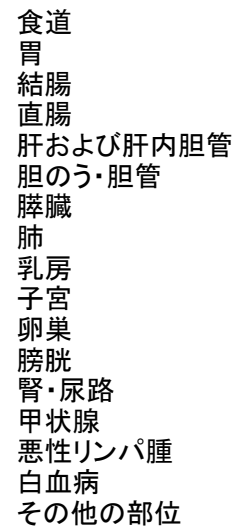
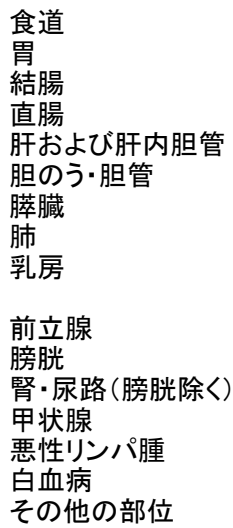
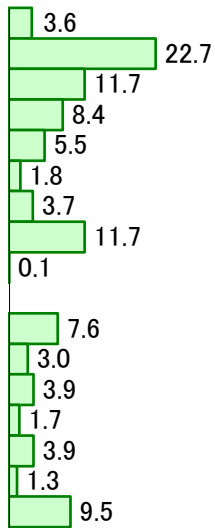


男性 40-64歳

777 件

女性 40-64歳

679 件

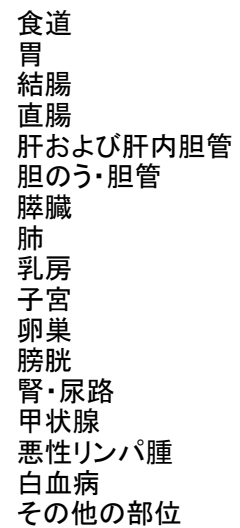
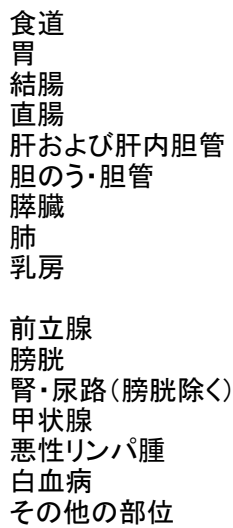
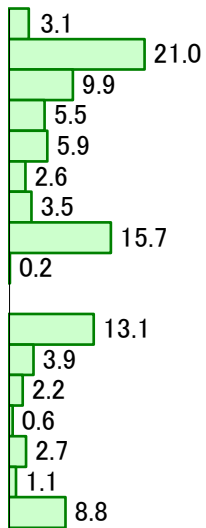


男性 65-74歳

959 件

女性 65-74歳

475 件

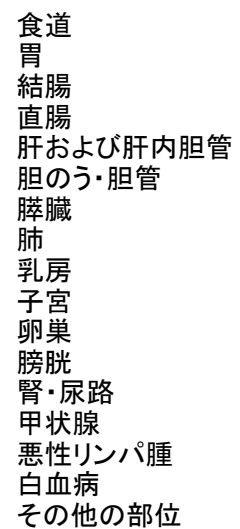
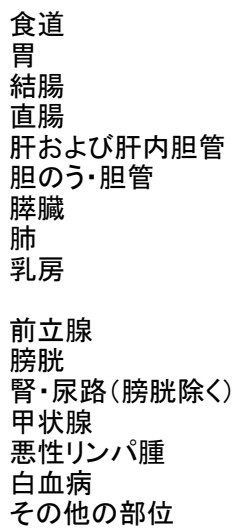
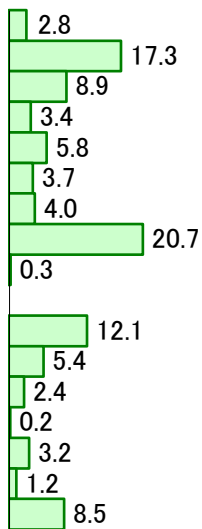


男性 75+歳

1,265 件

女性 75+歳

1,028 件



(5) 年齢階級別罹患順位

表4には、年齢階級別罹患順位を男女別に第3位まで示した。

表4 年齢階級別罹患部位順位 —男性—

平成20年

	第1位		第2位		第3位	
	部位	例数	部位	例数	部位	例数
全年齢	胃	600	肺	507	大腸	463
30-34	胃、脳・中枢神経系	2	口腔、肺、腎、甲状腺、悪性リンパ腫、白血病	1	—	
35-39	大腸、腎、甲状腺	3	胃、肺、悪性リンパ腫	2	膵臓、皮膚、乳房、脳	1
40-44	胃	6	肺	4	悪性リンパ腫	3
45-49	大腸	13	胃	12	肺	6
50-54	大腸	34	胃	22	肺	17
55-59	胃	69	大腸	53	肺	25
60-64	胃	67	大腸	54	肺	39
65-69	胃	92	大腸	75	肺	72
70-74	胃	109	肺	79	大腸	73
75-79	肺	117	胃	93	前立腺	83
80-84	肺	98	胃	84	大腸	56
85以上	肺	47	胃	42	大腸	32

※上皮内がんを含む

年齢階級別罹患部位順位 —女性—

平成20年

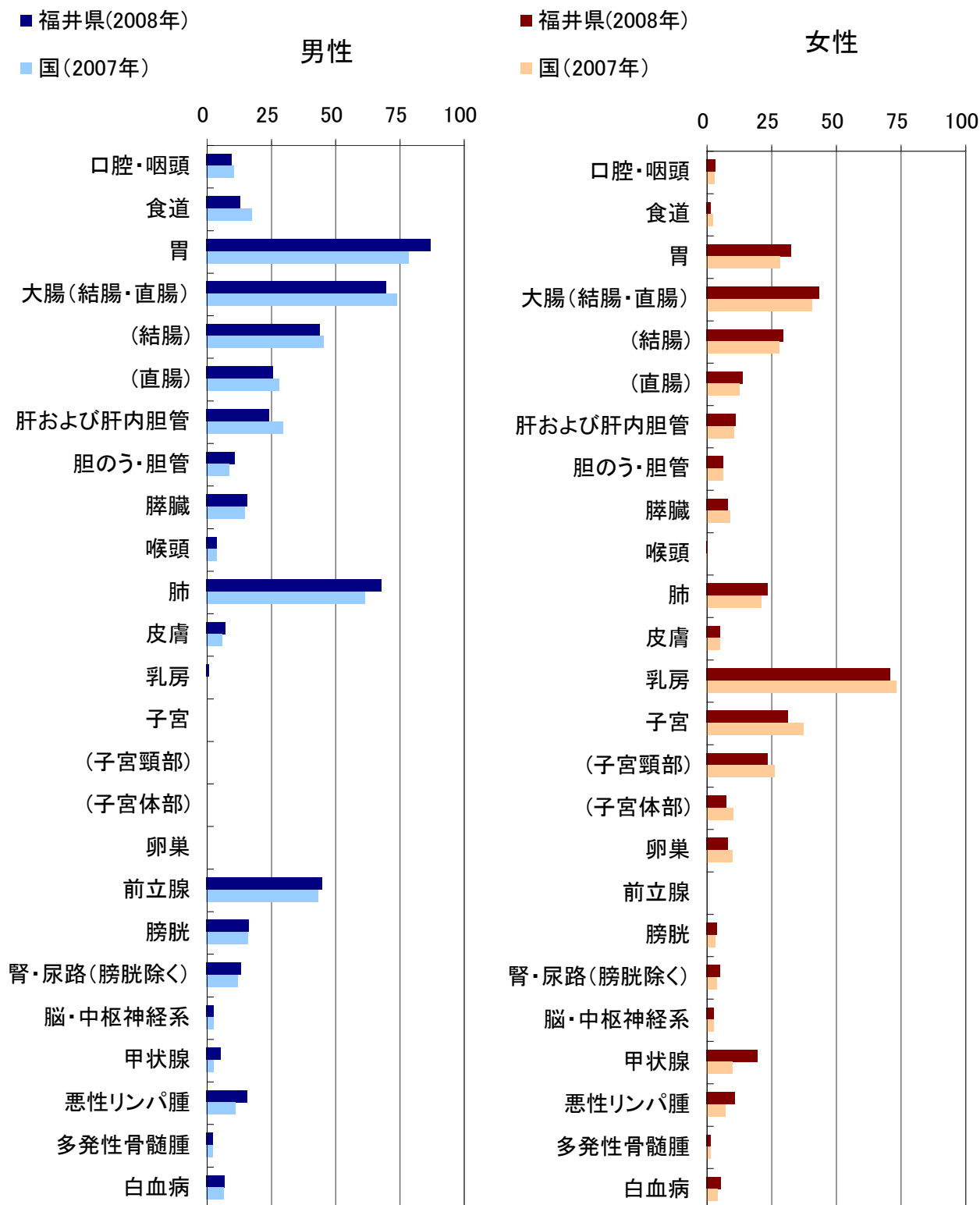
	第1位		第2位		第3位	
	部位	例数	部位	例数	部位	例数
全年齢	大腸	396	乳房	363	胃	298
30-34	子宮頸部	14	乳房	11	甲状腺	7
35-39	乳房	19	子宮頸部	12	胃、大腸、甲状腺	5
40-44	乳房	40	子宮頸部	21	胃	7
45-49	乳房	42	胃、甲状腺	8	子宮頸部	7
50-54	乳房	46	大腸	18	胃	12
55-59	乳房	36	大腸	34	甲状腺	15
60-64	乳房	39	大腸	26	胃	22
65-69	大腸	45	乳房	40	胃	22
70-74	大腸	49	乳房	41	胃	33
75-79	大腸	58	胃	53	肺	36
80-84	大腸	67	胃	47	肺	36
85以上	大腸	81	胃	71	肺	52

※上皮内がんを含む

福井県のがんの罹患の特徴

日本全体の推計値と比較すると、男女の胃、肺、甲状腺、悪性リンパ腫、男性の前立腺、女性の大腸の罹患率が高く、男性の大腸、肝臓、女性の乳房、子宮は罹患率が低い。

図8 部位別がん年齢調整罹患率：人口10万対（上皮内がんを含む）（表1-A、Bから作成）



国の値は、がん対策情報センター発行「全国がん罹患モニタリング集計 2007年罹患数・率報告」より引用。

登録の精度

(1) 届出の精度

表5には主な部位別に死亡票のみのものの割合の年次推移を示した。

表5 主な部位別死亡票のみの者の割合 (%) の推移 —男女計— 昭和59年～平成20年

年	全部位1	全部位2	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	前立腺	乳房	子宮
S59～S61	6.8	6.9	4.9	5.8	4.7	13.6	8.3	10.5	9.7	7.1	2.1	2.6
S62～H 1	1.9	2.0	1.1	1.0	0.9	3.7	2.6	3.6	3.6	2.5	0.0	0.6
H 2～H 4	2.9	3.0	1.6	1.4	1.1	4.4	3.2	4.4	7.2	3.9	0.9	2.0
H 5～H 7	3.8	3.9	2.5	2.8	2.3	4.7	4.0	7.1	8.1	2.6	1.1	1.5
H 8～H10	5.3	5.5	3.6	3.9	3.4	6.8	6.9	7.8	9.2	2.3	1.8	3.7
H11～H13	3.6	3.8	3.1	2.8	1.4	4.6	5.4	4.6	5.2	2.7	1.5	1.9
H14～H16	3.5	3.7	2.6	2.0	1.4	3.5	6.4	6.9	6.8	1.8	0.9	1.7
H17～H19	2.7	2.9	1.9	1.3	1.5	4.3	5.1	5.3	5.4	1.1	1.0	0.8
H20	3.4	3.6	2.4	1.4	1.8	5.5	3.4	7.5	8.5	0.6	1.1	1.4

※複数年については平均数および率である。

「全登録患者のうち、死亡票のみで登録されている者の割合 (%)」(DC0%)が小さいほど届出精度が高いと考えられる。死亡票のみの者の割合は、登録初期は全部位がんで9.1% (当時)であったが、年々改善され、昭和62～平成元年には2.4% (当時)と届出精度は最高となった。その後一時悪化した。近年、改善傾向にある。平成20年は前年の値2.6%よりも0.8%悪化した。

(2) 診断の精度

表6には届出患者について主な部位別、顕微鏡学的診断実施率の推移を示した。顕微鏡学的診断には、生検、手術、剖検時の組織診と細胞診による診断がすべて含まれる。

表6 主な部位別顕微鏡学的診断実施率 (%) の推移 —届出患者・男女計— 昭和59年～平成20年

年	全部位1	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	DC0 %
S59～S61	78.3	87.9	83.1	85.2	27.4	55.5	42.9	73.7	93.6	93.0	6.8
S62～H 1	81.6	93.3	88.6	90.3	29.6	61.9	41.7	76.3	95.6	93.3	1.9
H 2～H 4	79.4	92.6	89.1	91.5	24.8	51.6	37.5	72.6	95.8	91.8	2.9
H 5～H 7	79.9	93.3	89.2	92.4	24.8	56.8	37.9	73.5	96.1	93.2	3.8
H 8～H10	78.7	92.2	89.5	92.6	20.3	47.8	27.6	75.3	94.3	91.3	5.3
H11～H13	78.7	93.1	90.0	94.1	18.4	42.3	29.6	73.7	95.5	92.3	3.6
H14～H16	79.7	93.2	90.4	93.0	21.3	45.4	27.6	75.4	95.8	93.3	3.5
H17～H19	82.7	93.2	92.8	94.6	18.8	49.5	37.7	74.8	96.3	96.5	2.7
H20	83.5	94.9	93.6	95.1	14.3	51.1	36.0	76.7	97.6	97.3	3.4

※複数年については平均数および率である。

※胆嚢は胆管を含む。

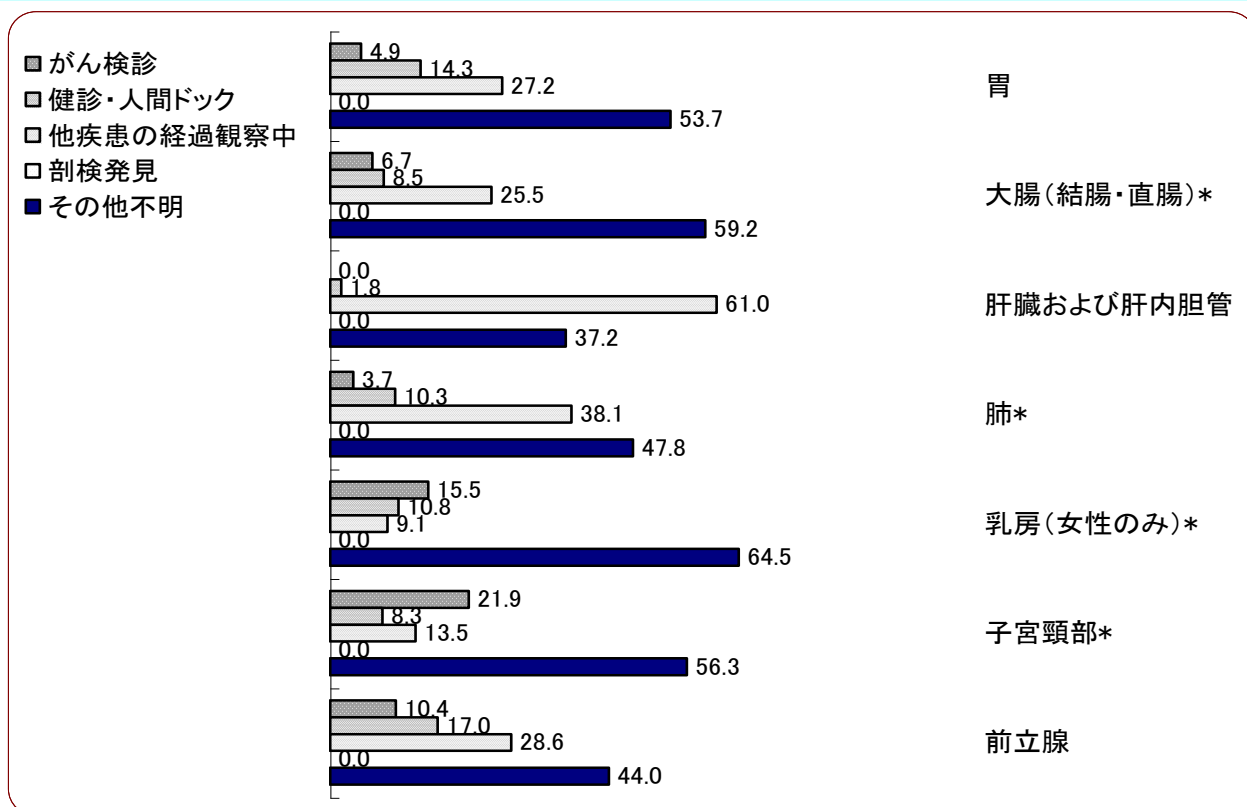
がんの診断が正確かどうかは病理組織診の有無による。その診断の精度をみる1つの目安である顕微鏡学的診断実施率は、例年全部位がんで80%前後を示している。肝がん、胆嚢胆管、膵臓がんは依然として低率であった。

発見経緯

一般に対策型によるがん検診が実施されている胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部において、がん検診もしくは健康診断や人間ドックが発見の契機となった症例の割合は、胃 19.2%、大腸 15.2%、肺 14.0%、乳房 26.3%、子宮頸部 30.2%と大腸以外は前年の割合より増加した。前立腺がんは、対策型がん検診には含まれないもののP S A検査が広く行われているため、27.4%と高かった。その他・不明には何らかの症状による医療機関受診時の発見が含まれる。その他・不明の割合が減少し、検診等で発見された割合の増加が望まれる。

肝・肝内胆管において、他疾患の経過観察中の発見が多いのは、肝炎や肝硬変の治療中の発見によると考えられる。肺において、他疾患の経過観察中が比較的多いのは、生活習慣病などで受診している患者は、年1回程度胸部X-Pを撮影するためと考えられる。

図9 部位別発見経緯 (%) : 対象は DCO を除く届出患者 (表 4-A、B から作成)

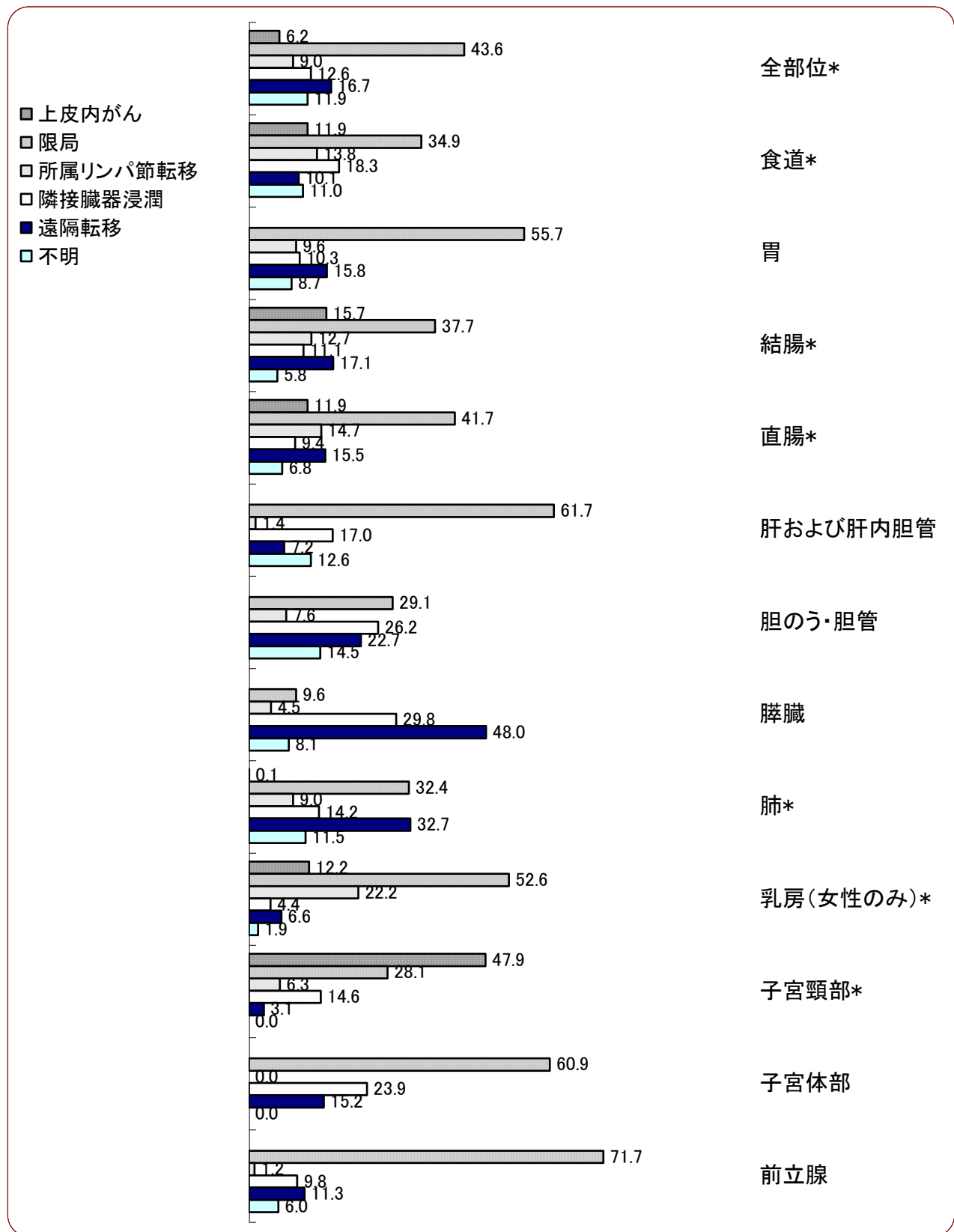


* 上皮内がんを含む

病期

胃、結腸、直腸、乳房、子宮など、一般的にがん検診が実施されている部位においては、発見時の病期が上皮内がん、限局がんの割合が高く、全部位では 49.8%と平成 19 年と比較して 0.4%増加した。一方、肺は、がん検診が実施されている部位ではあるが、発見時に遠隔転移があった割合が高い。胆のう・胆管、膵臓といった腫瘍が比較的大きくなるまで自覚症状の出にくい部位も、発見時に遠隔転移があった割合が高い。

図 10 部位別発見時の病期 (%) : 対象は DCO を除く届出患者 (表 5-A、B から作成)

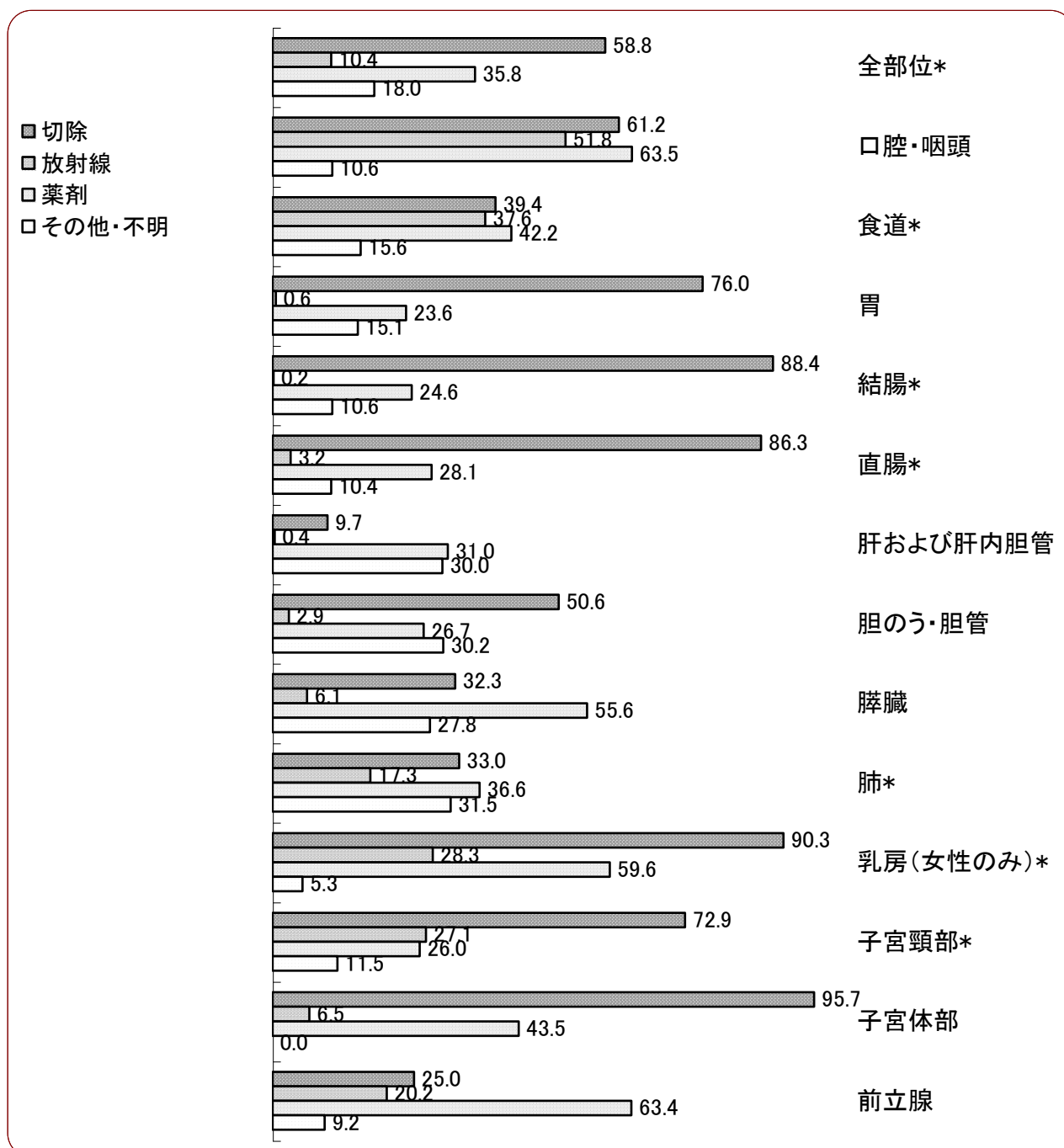


* 上皮内がんを含む
 胃の限局には、mがんを含む。
 結腸・直腸の上皮内は、mがんまでを指す。
 子宮頸部の上皮内は、CIN3を含む。

初回治療の方法

胃、大腸などの消化管、乳房、子宮では、手術などの外科的治療の割合が高い。口腔・咽頭、食道、乳房、子宮頸部、前立腺では、薬剤や放射線による治療も比較的多く行われている。肺では、手術と薬剤（化学療法）が同じ程度行われている。前立腺の薬剤による治療は、ほとんど内分泌治療と考えられる。

図 11 初回治療の方法 (%) : 対象は DCO を除く届出患者 (表 6-A、B から作成)



* 上皮内がんを含む

切除には、外科的、体腔鏡的、内視鏡的手術を含む。

薬剤には、化学療法、免疫療法、内分泌療法を含む。

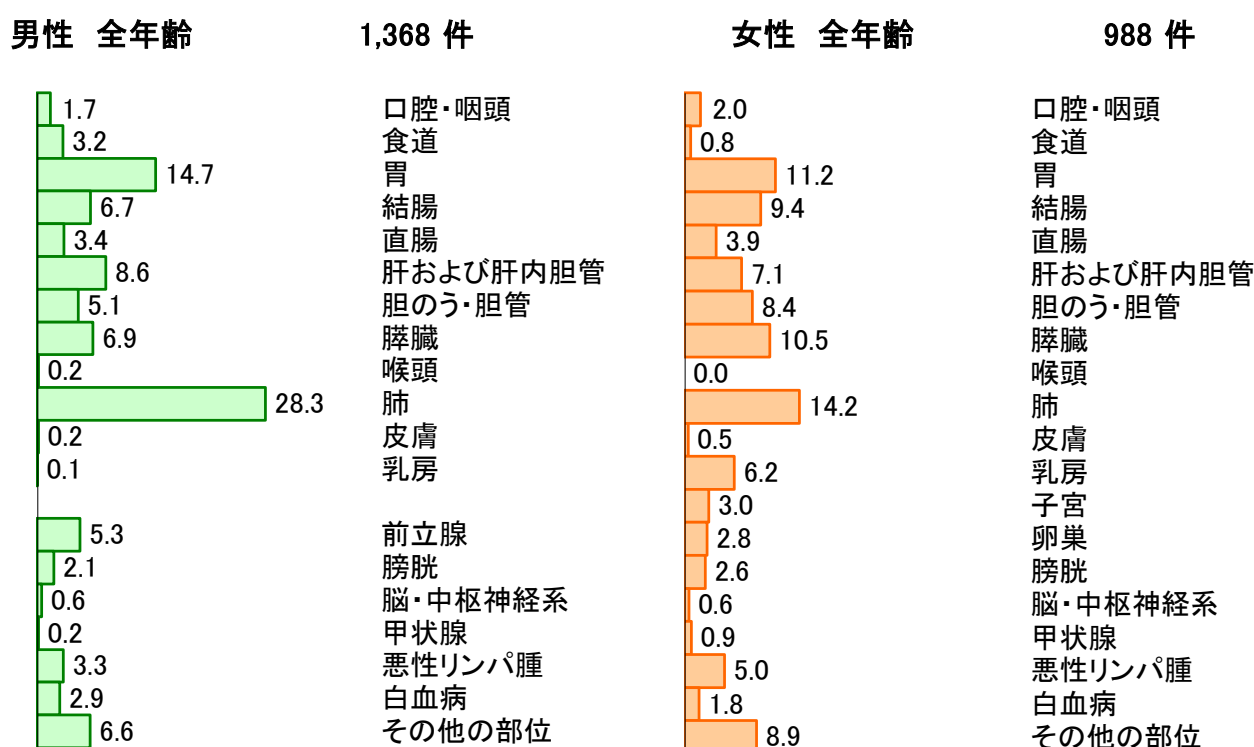
死亡の概要

平成 20 年の福井県の総死亡数は 8,088 人（男 4,123 人、女 3,965 人）で、うち悪性新生物による死亡は 2,356 人（男 1,368 人、女 988 人）で総死亡の 29.1%を占めた。

男性は肺がん、胃がん、大腸がん、女性は肺がん、大腸がん、胃がんの順で死亡数が多い。

罹患数と比べると、男性で罹患の比較的多かった前立腺は、死因としてはそれほど多くはないことがわかる。

図 12 部位内訳 (%) (表 9 から作成)



年齢別に見たがんの死亡

福井県で平成 20 年のがんで死亡された方は、男女とも 8 割以上が 65 歳以上の方であった。ほとんどあらゆる部位のがんは、年齢が高くなるほどかかりやすくなるため、がんによる死亡者も高齢者が多い（図 1 3）。働き盛りの 40-64 歳のがんによる死亡率は、男性では胃がん、大腸がん、膵臓がん、肝がん、女性では乳がん、子宮がん、膵臓がんが高い（図 1 4）。39 歳以下のがんによる死亡は、男性では胃、大腸、胆のう、膵臓、膀胱、脳のがんおよび悪性リンパ腫、女性では口腔・咽頭、胃、子宮、卵巣および脳のがんおよび悪性リンパ腫である（標準集計表 表 1 1 p57）。

部位別に見ると、男性の膵臓 50 歳以上、胃、肝は 55 歳以上、大腸、肺は 60 歳以上から増え始め、女性は、子宮が 35 歳以上、乳房は 40 歳以上、肝は 55 歳以上、大腸、膵臓は 60 歳以上、肺は 70 歳以上、胃は 75 歳以上から増え始める。

図 13 年齢内訳 (%) (表 9 から作成)

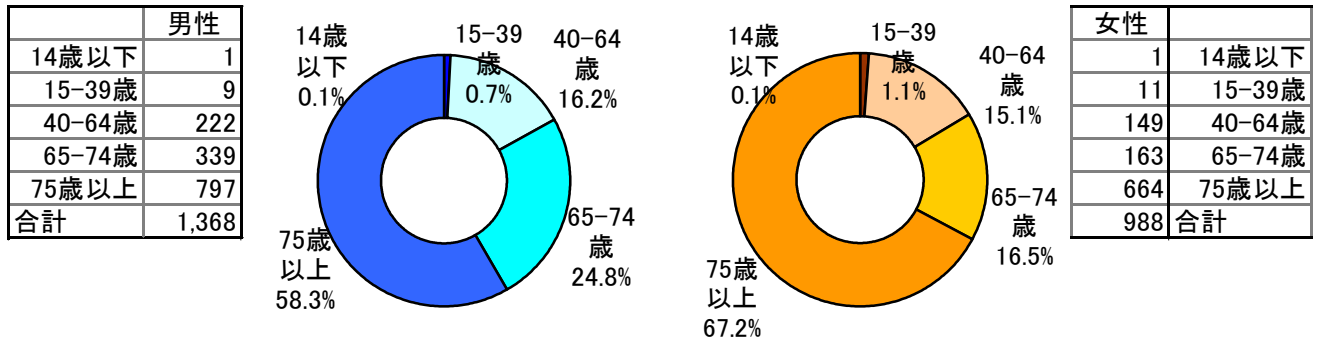
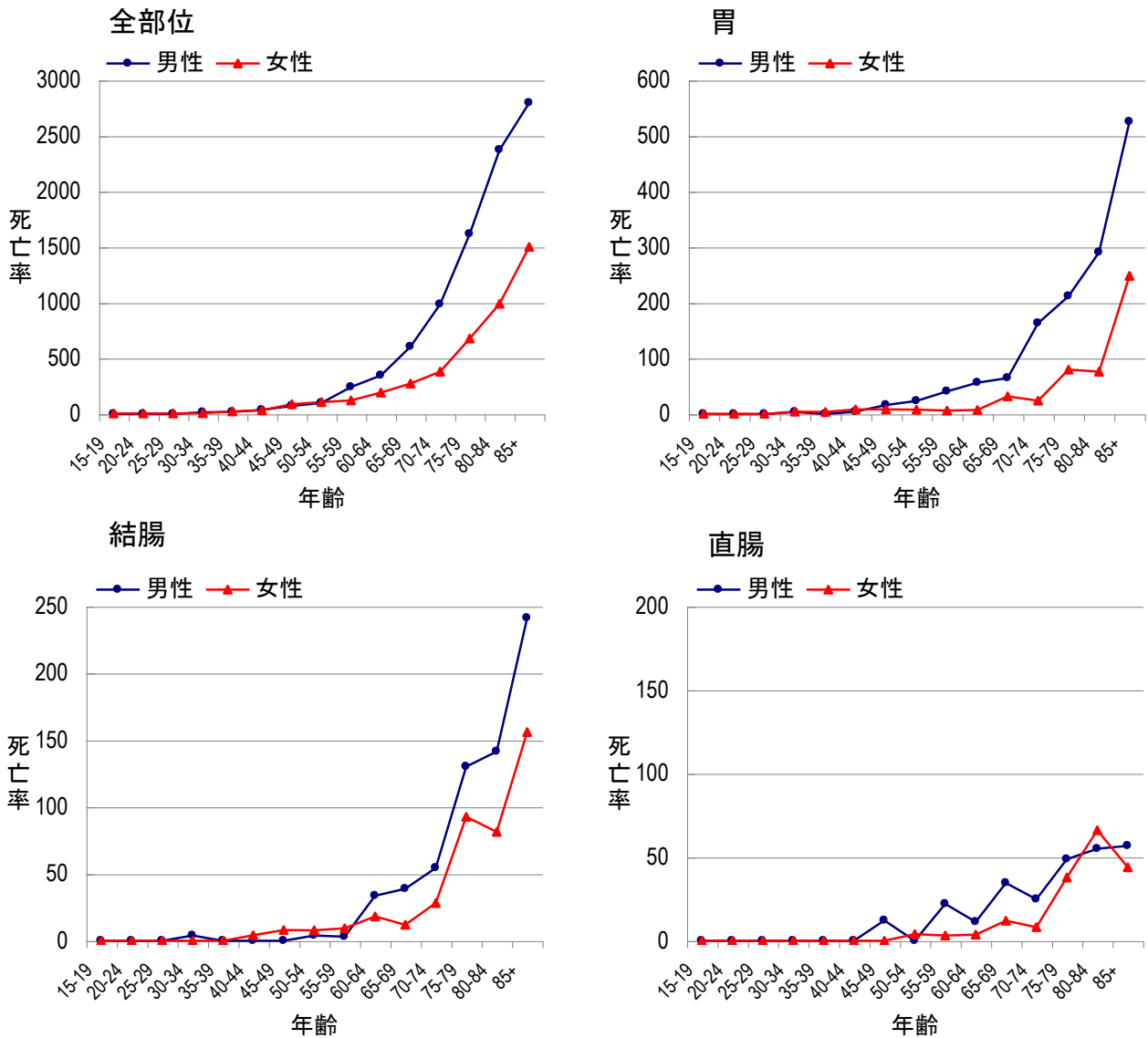


図 14 部位別年齢階級別死亡率：人口 10 万対 (表 11 から作成)



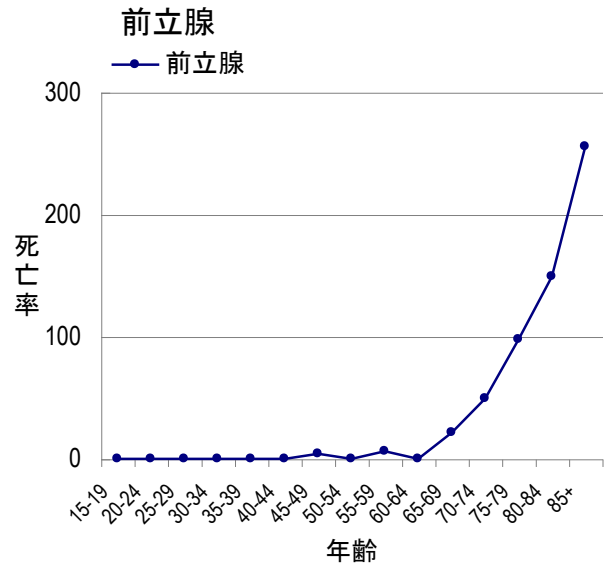
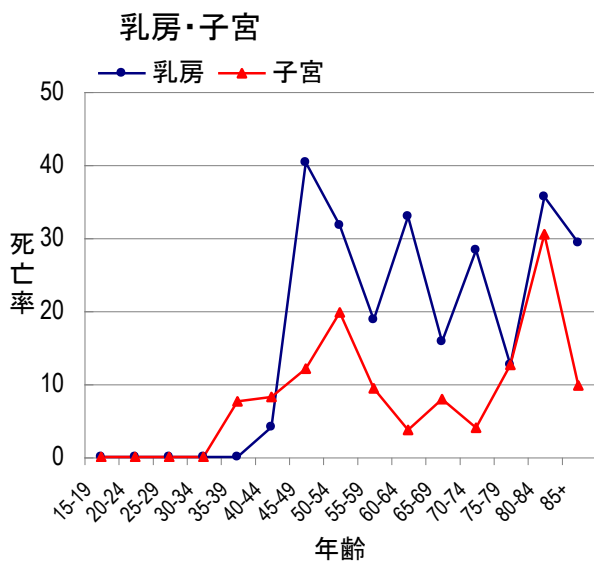
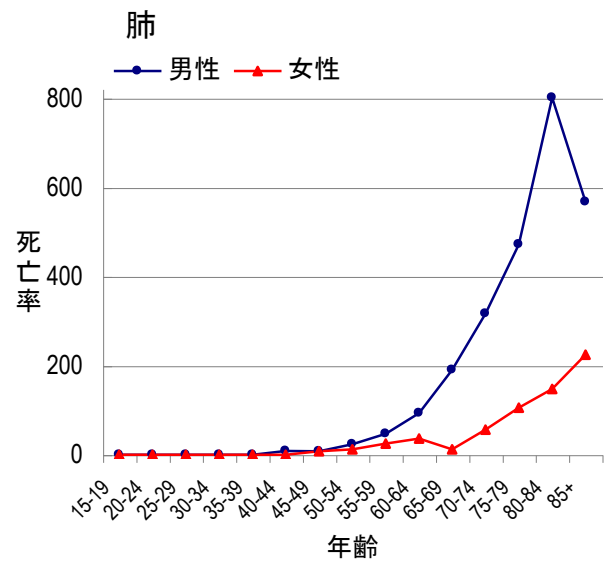
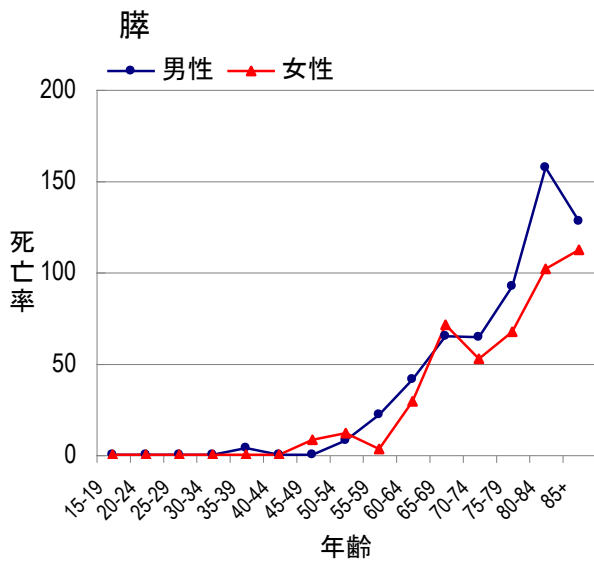
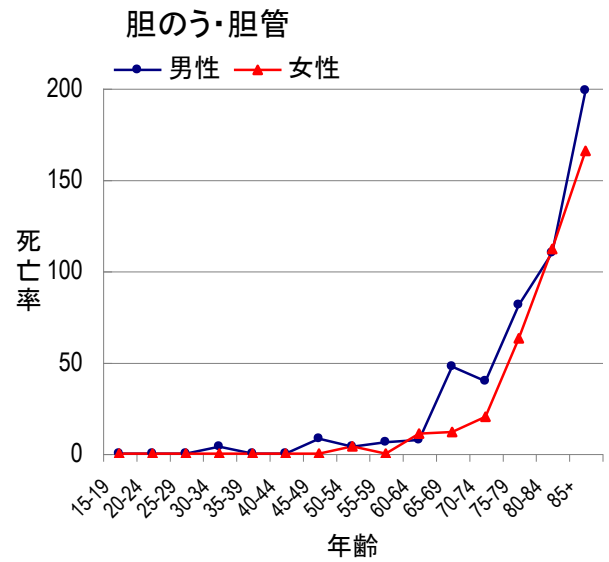
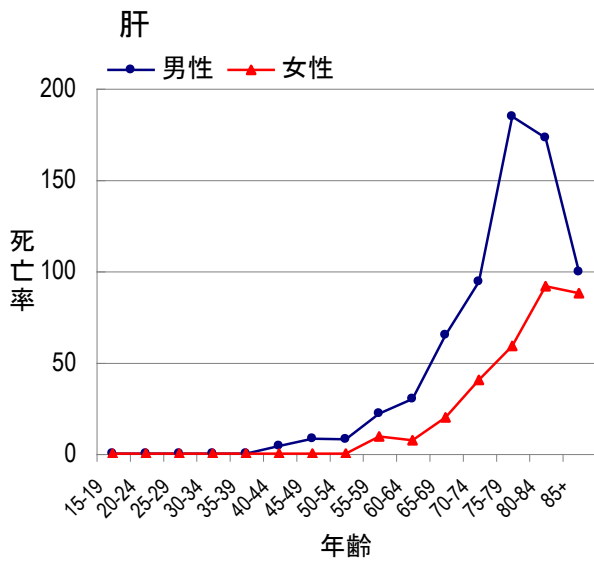


表7には、年齢階級別死亡順位を男女別に第3位まで示した。

表7 年齢階級別死亡部位順位 —男性—

平成20年

	第1位		第2位		第3位	
	部位	例数	部位	例数	部位	例数
全年齢	肺	387	胃	201	大腸	137
30-34	胃、大腸、脳・中枢神経系	1	—	—	—	—
35-39	膵臓、膀胱、悪性リンパ腫	1	—	—	—	—
40-44	肺	2	食道、胃、肝、脳、白血病	1	—	—
45-49	胃	4	大腸	3	食道、肝臓、胆のう、肺	2
50-54	胃、肺	6	食道	3	肝臓、膵臓	2
55-59	肺	15	胃	13	食道、大腸	8
60-64	肺	25	胃	15	大腸	12
65-69	肺	44	大腸	17	胃、肝臓、膵臓	15
70-74	肺	64	胃	33	肝臓	19
75-79	肺	87	胃	39	肝臓	34
80-84	肺	102	胃	37	大腸	25
85以上	肺	45	胃	37	大腸	21

年齢階級別死亡部位順位 —女性—

平成20年

	第1位		第2位		第3位	
	部位	例数	部位	例数	部位	例数
全年齢	肺	140	大腸	132	胃	111
30-34	胃、悪性リンパ腫	1	—	—	—	—
35-39	胃、子宮頸部、卵巣	1	—	—	—	—
40-44	胃、子宮頸部	2	大腸、乳、卵巣	1	—	—
45-49	乳房	10	胃、大腸、膵臓、肺、子宮頸部	2	子宮体部、腎	1
50-54	乳房	8	子宮頸部	4	大腸、肺、膵臓	3
55-59	肺	8	乳房	6	大腸	4
60-64	肺	10	乳房	9	膵臓	8
65-69	膵臓	18	胃	8	大腸	6
70-74	肺	14	膵臓	13	肝臓	10
75-79	大腸	31	肺	25	胃	19
80-84	肺、大腸	29	胆のう	22	膵臓	20
85以上	胃	51	肺	46	大腸	41

部位別死亡の年次推移

表 8 に、平成 7 年から平成 20 年までの死亡数、粗死亡率および年齢調整死亡率の推移を男女計で主な部位別に示した。

表 8 主な部位別死亡数、死亡率の推移

A) 死亡数の推移

—男女計—

平成 7 年～平成 20 年

年	全部位 ¹	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	リンパ組織	白血病
H 7	1,780	38	343	147	65	194	138	127	318	45	30	36	30	51	37
H 8～H10	1,927	36	362	140	69	203	133	134	372	55	29	44	35	63	41
H11～H13	2,039	36	350	174	77	210	143	152	395	55	35	51	37	62	41
H14～H16	2,154	46	347	158	82	243	140	155	423	48	32	59	43	73	50
H17～H19	2,251	52	357	181	85	210	150	181	446	70	32	63	53	73	50
H20	2,356	52	312	184	85	187	153	199	527	62	30	73	55	94	57

B) 粗死亡率（人口 10 万人対）の推移

—男女計—

平成 7 年～平成 20 年

年	全部位 ¹	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	リンパ組織	白血病
H 7	217.0	4.6	41.8	17.9	7.9	23.6	16.8	15.5	38.8	5.5	3.7	4.4	3.7	6.2	4.5
H 8～H10	234.7	4.3	44.1	17.1	8.4	24.7	16.2	16.3	45.4	6.7	3.5	5.3	4.3	7.6	5.0
H11～H13	248.9	4.4	42.8	21.2	9.4	25.7	17.4	18.6	48.2	6.7	4.3	6.3	4.5	7.5	5.0
H14～H16	263.9	5.6	42.5	19.4	10.0	29.7	17.1	19.0	51.9	5.8	3.9	7.3	5.2	8.9	6.1
H17～H19	278.2	6.4	44.2	22.4	10.5	26.0	18.6	22.3	55.1	8.7	7.7	16.1	6.5	9.0	6.2
H20	294.8	6.5	39.0	23.0	10.6	23.4	19.1	24.9	65.9	7.8	7.3	18.8	6.9	11.8	7.1

C) 年齢調整死亡率（人口 10 万人対）の推移

—男女計—

平成 7 年～平成 20 年

年	全部位 ¹	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	リンパ組織	白血病
H 7	129.9	3.2	26.6	11.4	5.0	16.0	10.2	9.8	24.3	4.2	4.1	6.5	1.9	4.2	3.4
H 8～H10	140.9	2.9	26.2	10.0	5.3	15.4	8.7	9.3	26.5	5.3	4.0	7.2	2.2	4.6	3.5
H11～H13	136.9	2.6	23.4	11.4	5.4	14.5	8.4	10.0	25.5	4.6	4.6	7.5	2.0	4.4	3.3
H14～H16	129.8	3.2	20.4	9.1	5.2	15.5	7.3	9.6	24.7	4.4	3.8	7.9	1.8	4.6	3.6
H17～H19	127.1	3.2	19.3	10.1	5.3	12.7	7.2	10.2	23.9	5.6	4.1	7.3	2.4	4.0	3.4
H20	127.8	3.4	16.6	9.2	4.8	10.2	7.1	11.4	27.8	5.3	5.1	8.3	2.2	4.5	3.3

※複数年については平均数および率である。

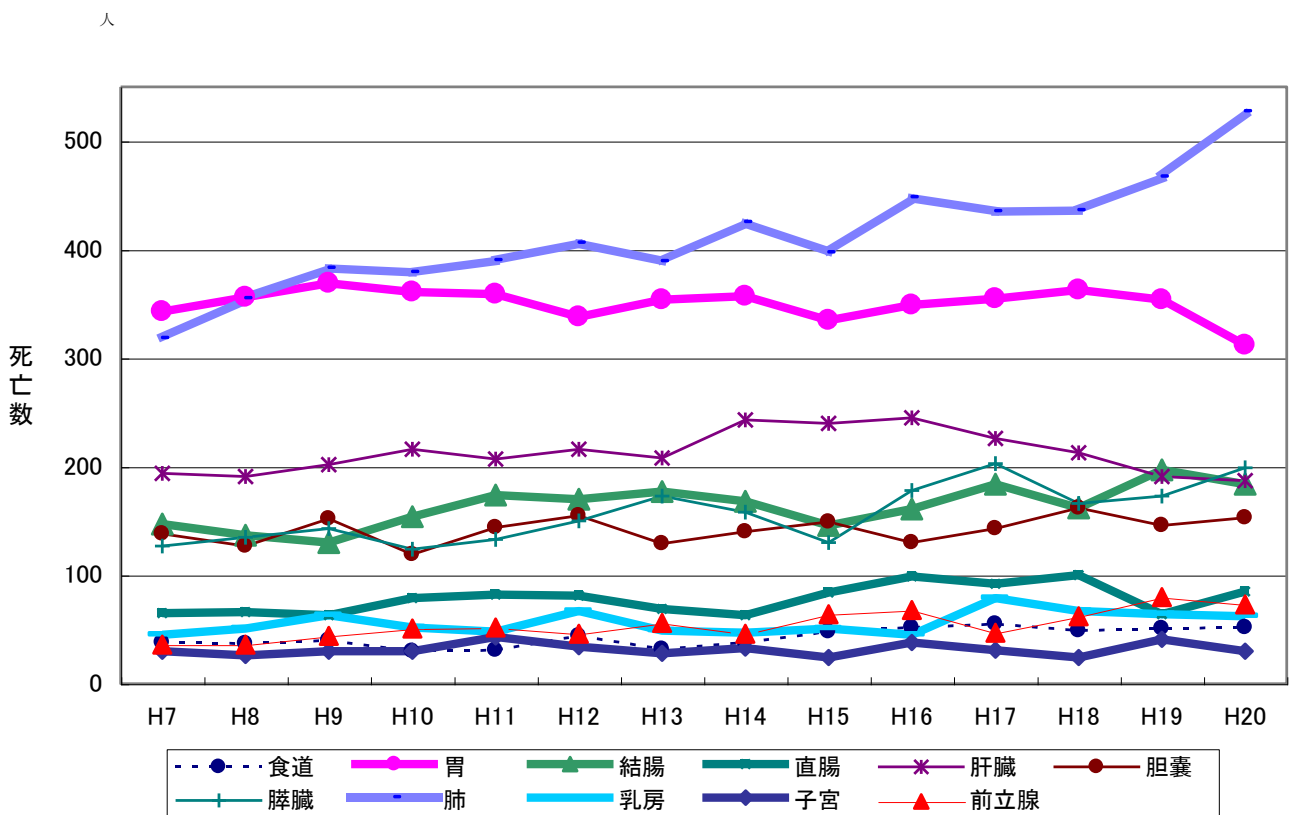
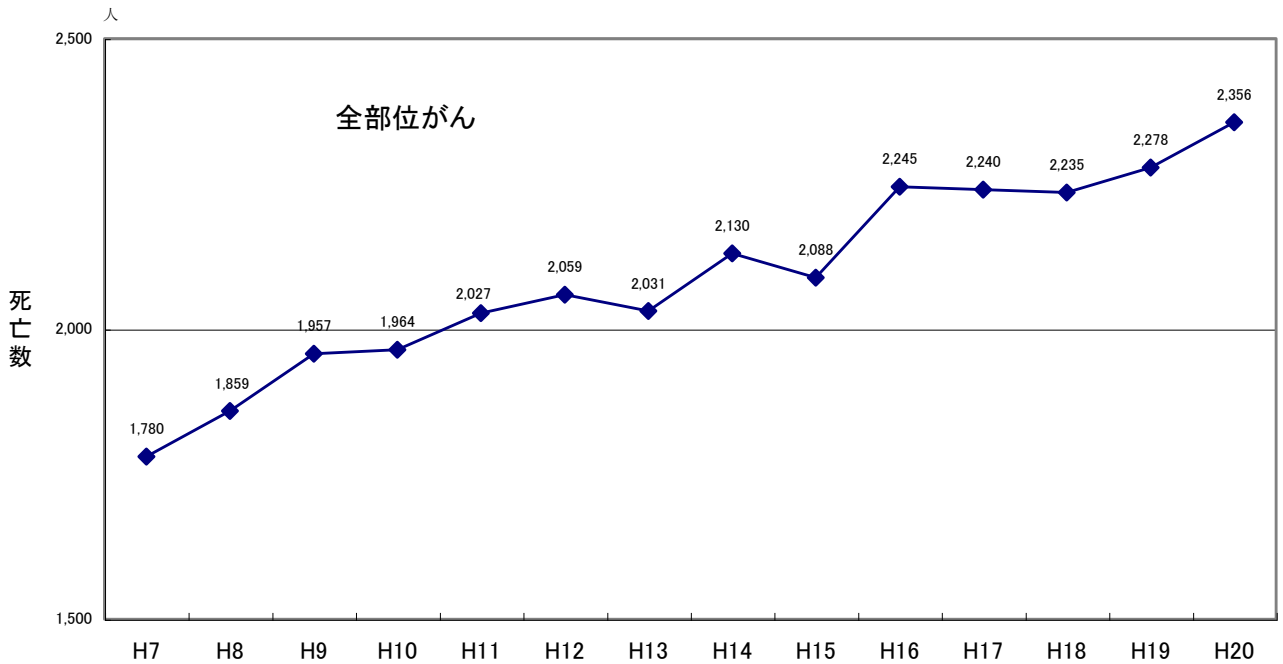
※胆嚢は胆管を含む。

※子宮がんは女のみの数および率を用いた。

※前立腺がんは男のみの数および率を用いた。

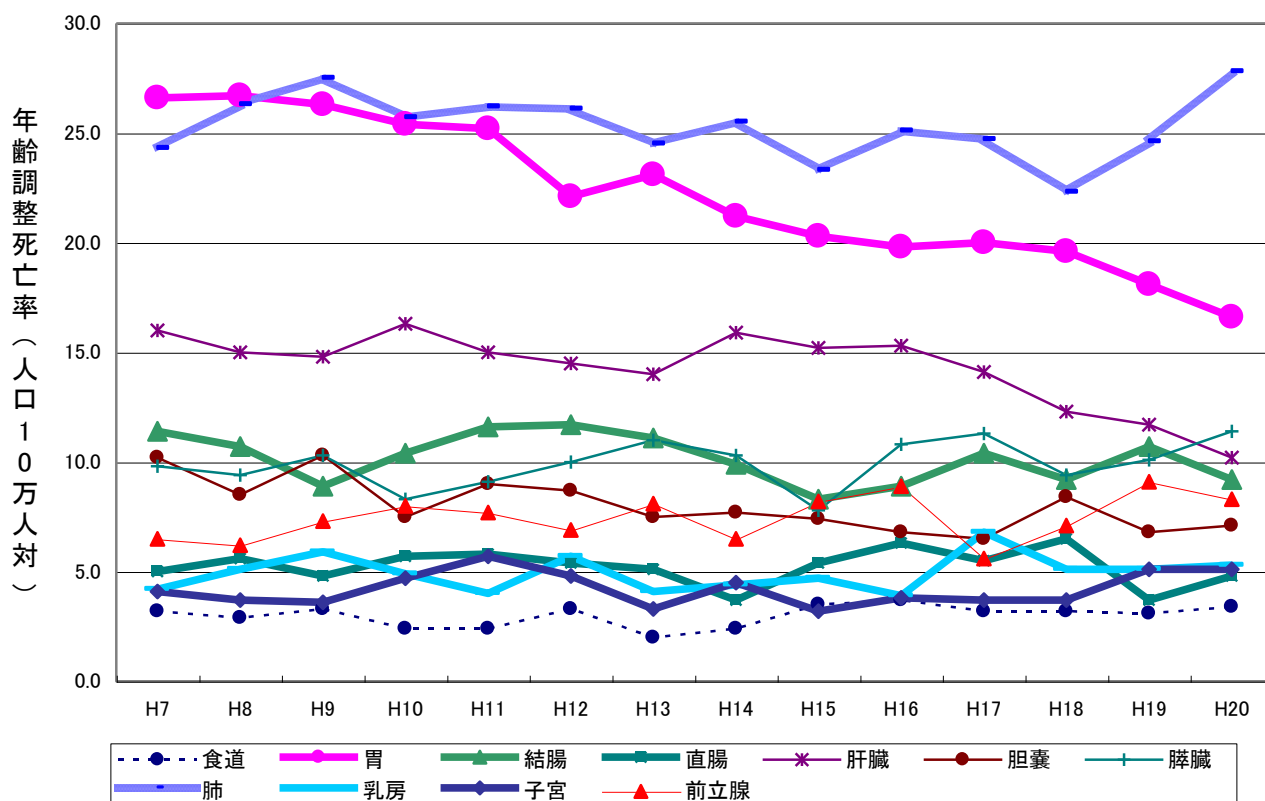
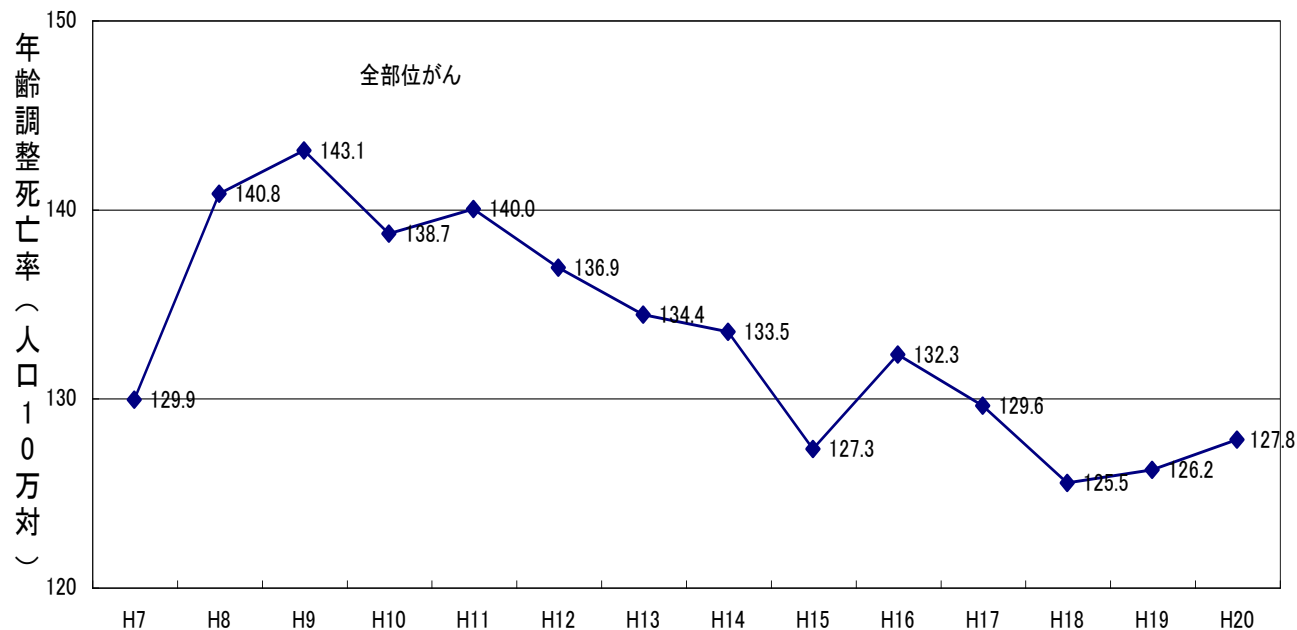
年齢調整死亡率でみると、全部位のがんの死亡は近年減少傾向であったが、平成 20 年は増加した。平成 17 年～19 年の平均率と比較すると、胃がん、肝臓がん、結腸がんが減少し、一方、肺がん、膵臓がん、子宮がん、前立腺がんの死亡率は増加した。

図 15 主な部位別死亡数の推移 (男女計)



※ 胆嚢は胆管を含む。

図 16 主な部位別年齢調整死亡率の推移 (男女計)

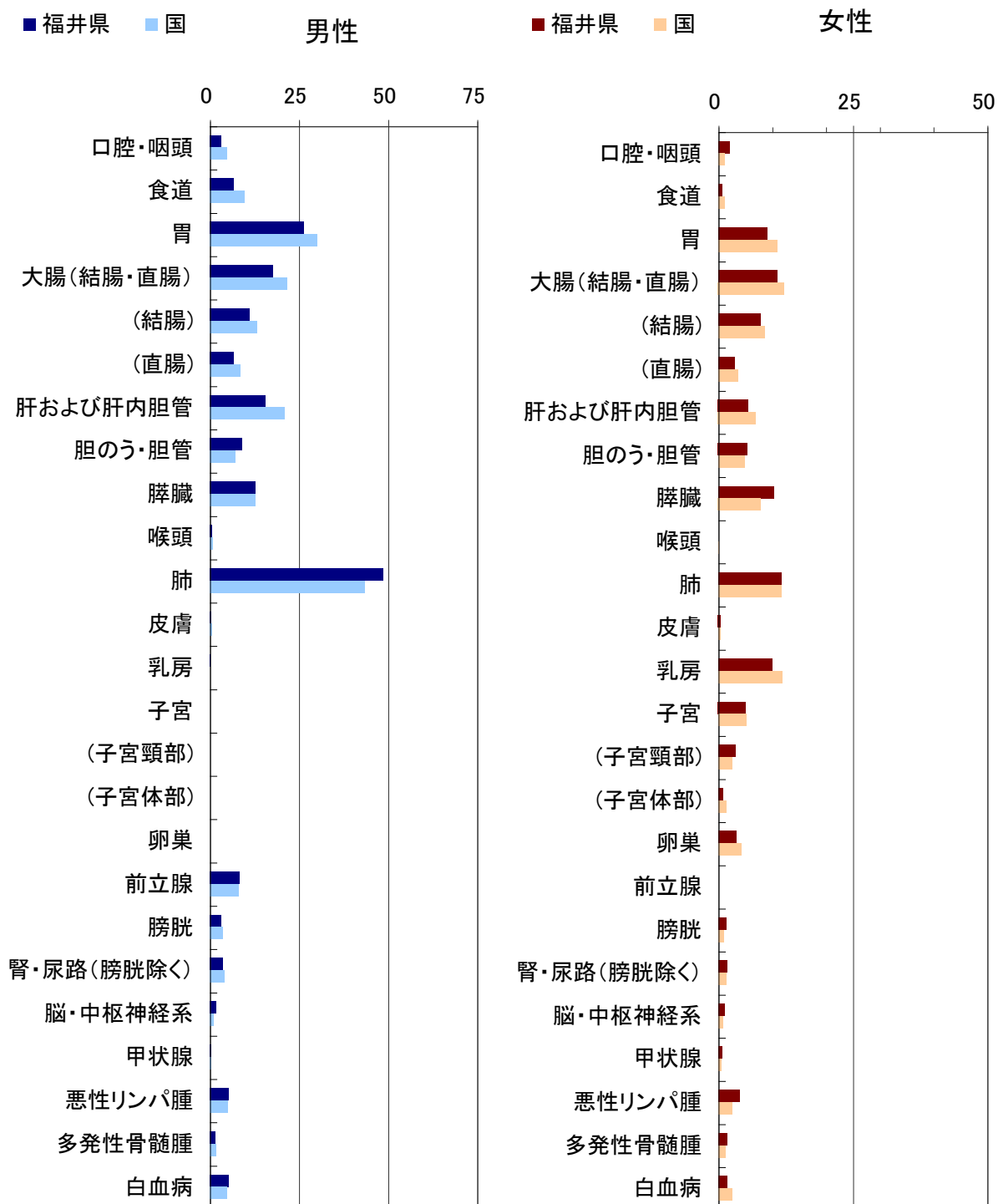


※胆嚢は胆管を含む。
 ※子宮がんは女のみの率を用いた。
 ※前立腺がんは男のみの率を用いた。

福井県のがんの死亡の特徴

平成 20 年の福井県のがんの死亡は、ほぼすべての部位において、日本全体と比較し、死亡率が低い。特に、男女の胃、大腸、肝、男性の食道、女性の乳房においてその差が大きい。一方、男性の胆のう・胆管、肺および女性の膵と悪性リンパ腫は、全国値よりも死亡率が高い。

図 17 部位別がん年齢調整死亡率：人口 10 万対（表 9 から作成）



部位別 5 年相対生存率（平成 17 年）

表 9 には、届出患者について、平成 5 年から平成 16 年までの 3 年ごとの 5 年相対生存率の平均値と、平成 17 年の 5 年相対生存率を比較して示した。

全部位（上皮内がんを含まない）の 5 年相対生存率は、平成 17 年は 61.3% となり、近年では最も高く、数値は改善傾向にある。

表 9 主要部位別 5 年相対生存率

部 位	5 年相対生存率				
	H5～H7	H8～H10	H11～H13	H14～H16	H17
全 部 位	55.1	56.6	58.6	59.6	61.3
食 道	21.1	36.1	31.8	41.5	45.3
胃	67.1	66.1	68.2	68.7	68.4
結 腸	69.8	66.8	66.0	67.5	72.4
直 腸	59.6	68.2	65.8	64.4	71.1
肝 臓	17.7	26.8	33.6	29.3	29.7
胆嚢胆管	24.2	18.8	24.4	23.3	17.0
膵 臓	8.7	8.1	6.4	6.9	4.3
肺	19.9	23.1	29.8	32.0	34.5
乳 房	84.2	88.0	87.6	90.1	91.4
子 宮	74.0	72.1	79.0	76.8	72.2
卵 巣	52.4	62.1	54.5	65.2	43.0
前立腺	70.6	74.1	90.3	94.9	87.9
膀 胱	83.6	78.8	88.3	81.5	79.5
甲 状 腺	92.2	93.9	93.3	90.8	94.0
リンパ組織	52.5	57.0	59.8	57.9	79.8
白 血 病	28.3	42.0	35.9	27.2	39.8

※ 複数年については平均率である。

※ 届出票による登録を対象にしており、補充票および死亡票のみで登録されたものは含まない。

※ 上皮内がんを除く。

おわりに

福井県がん登録事業にご協力いただいた各医療機関に深謝いたしますとともに、関係者の皆様のご支援に謝意を表します。

特に、登録作業の実務および本報告書の作成に多大なるご尽力をいただいた方々に感謝申し上げます。

(平成 24 年 6 月)